国語 三 下

あおぞら

空がまぶしい、
このわたしの上に。
あそこの牛の上に。
あの山の上で生きている
一本松の上に。
みんなおんなじに
青く青くすんで……。

この本で学習するみなさんへ

この本では、次のしるしが使われています。

- 話したり聞いたりしましょう。
- 書きましょう。
- 読みましょう。
- 言葉の学習をしましょう。
- たいせつ おぼえておきましょう。他の学習や生活の中でも役に立ちます。
- 国語の学習に用いる言葉をたしかめましょう。
- 学習を進めるときに気をつけることなどをまとめています。
- 音声を聞いて、学習しましょう。
- 学習に関係のあるページをしめしています。

文字や言葉のしるし

○ 新しく学習する漢字。

● 読み方が新しい漢字。音はかたかなで、訓は平がなでしめしてあります。

◆ とくべつな読み方をする言葉。

このしるしがあるところには、学習の助けとなるしりょうがあります。読み取るときには、かならず、先生やおうちの方といっしょに行いましょう。

目次

三年生の国語の学びを見わたそう …… 4
じょうほう 分ける・くらべる …… 9
つづけてみよう …… 10

1 場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう 読む
ちいちゃんのかげおくり
あまん きみこ …… 11
言葉 修飾語を使って書こう …… 29

はんで意見をまとめよう
話す・聞く …… 34

2 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう 読む 書く
すがたをかえる大豆
国分 牧衛 …… 41
じょうほう 科学読み物での調べ方 …… 50
食べ物のひみつを教えます …… 51
ことわざ・故事成語 …… 56
言葉 漢字の意味 …… 60
短歌を楽しもう …… 62

3 組み立てをとらえて、民話をしょうかいしよう 読む
三年とうげ
李錦玉 …… 65

たから島のぼうけん
書く …… 81
詩の楽しみ方を見つけよう 読む
詩のくふうを楽しもう …… 88
カンジーはかせの音訓かるた …… 92

4 読んで感想をもち、つたえ合おう 読む
ありの行列
大滝 哲也 …… 95
つたわる言葉で表そう …… 105

これがわたしのお気に入り
書く …… 109
言葉 コンピュータのローマ字入力 …… 115

わたしたちの学校じまん
話す・聞く …… 116

5 登場人物について、話し合おう 読む
モチモチの木
斎藤 隆介 …… 121

きせつの言葉 秋 32 冬 86
漢字の広場 ④ 40 ⑤ 64 ⑥ 94

ふろく 学習を広げよう
「たいせつ」のまとめ …… 138
インタビュー 知りたいことをきく …… 142
本の世界を広げよう …… 144
知ると楽しい「故事成語」 …… 146
これまでに習った漢字 …… 148
この本で習う漢字 …… 153
言葉のたから箱 …… 157

三年生の

国語の学びを見わたそう

国語の学習で、みんなで考え、学びを深めていくために、学習の進め方と、これから学ぶことをたしかめましょう。

学習の進め方

はじめに

「こんなことがしたい。」
「こうすればできそう。」
「どうして――だろう。」

▼

読む　書く　話す・聞く

▼

ふりかえる

「考えがかわった。」
「知っている言葉がふえた。」
「次はこんなふうにしてみよう。」

▼

学習や生活にいかす

「――のときに，
いかすことができそう。」
「この言葉を使ってみよう。」

三年生で学習すること

これから学ぶことをたしかめたり、学習したことをふり返ったりして、言葉の力を高めていきましょう。

三年上までの学びをたしかめよう

決める集める

- つたえたいことを、「いつ」「どこ」「だれ」「何」に気をつけて、くわしく思い出す。

じゅんびする

- 「はじめ」「中」「終わり」など、話のじゅんじょを考える。

話す・聞く

話す

- 話すないようや相手に合わせて、声の大きさや速さをくふうする。
- 大事なことは何かを考えて話す。
- 話す人の方を見ながら聞く。
- 自分が知りたいことをはっきりさせ、どうしつもんするとよいかを考える。

聞く

- 友だちの話につなげて話す。

話し合う

- 自分の考えを話すときは、理由を言う。
- 話したり聞いたり話し合ったりして、気がついたことをつたえ合う。

つなげる

- 見たり聞いたり思い出したりして、書くことを決める。
- 書くもののことを、短い言葉や文でメモし、書きたいことをはっきりさせる。

組み立てる

- つたえたいことを、ないようのまとまりごとに分ける。
- 「はじめ」「中」「終わり」のまとまりに組み立てる。

書く

- 分かったことと考えたことを分けて書く。
- 読む人につたわるように、くわしく書いたり、絵や写真を使ったりする。
- 書いたものを読み返し、まちがいや読みにくいところを直す。

つなげる

- 読み合って、思ったことなどをつたえる。
- 自分の文章のよいところを見つける。

話す・聞く

はんで意見をまとめよう……34
進行を考えながら話し合う　司会

わたしたちの学校じまん……116
相手や目的を考え、理由をあげて話す

上
よく聞いて、じこしょうかい
もっと知りたい、友だちのこと
話を聞いて、しつもんする
山小屋で三日間すごすなら

書く

食べ物のひみつを教えます……51
れいをあげて書く

たから島のぼうけん……81
物語の組み立てを考えて書く

これがわたしのお気に入り……109
感想をつたえ合う

上
気もちをこめて「来てください」
あんないの手紙を書く
仕事のくふう、見つけたよ
組み立てを考えて、ほうこくする文章を書く

句読点

読む

せつめいする文章

すがたをかえる大豆……41
話題と、れいの書かれ方をとらえる

ありの行列……95
せつめいする文章を読んで、感想をつたえ合う

上
言葉で遊ぼう
こまを楽しむ
段落とその中心をとらえる　段落　問い
ポスターを読もう　キャッチコピー

物語・詩

ちいちゃんのかげおくり……11
物語に対する感想をもつ　会話文・地の文

三年とうげ……65
組み立てをとらえる

詩のくふうを楽しもう……88

モチモチの木……121
登場人物のせいかくをとらえる　語り手

どきん
きっつきの商売
場面のようすや、登場人物の気もちをそうぞうする　場面

上
まいごのかぎ
登場人物のへんかに気をつけて読む

わたしと小鳥とすずと
夕日がせなかをおしてくる　連

言葉

言葉の使い方

修飾語を使って書こう…29
漢字の意味……60
カンジーはかせの音訓かるた……92
つたわる言葉で表そう…105
コンピュータのローマ字入力……115

上
国語辞典を使おう
漢字の音と訓
こそあど言葉を使いこなそう
へんとつくり
ローマ字
漢字の広場①〜③
漢字の広場④〜⑥

じょうほう

分ける・くらべる…9
科学読み物の調べ方……50　奥付

上
分ける・くらべる
全体と中心
引用するとき　引用

受けつがれる言葉

ことわざ・故事成語……56
短歌を楽しもう…62
きせつの言葉
秋・冬

上
俳句を楽しもう
きせつの言葉　春・夏

読書

上
図書館
たんていだん
はじめて知ったことを知らせよう
図鑑や科学読み物を読む　さくいん
鳥になったきょうりゅうの話

三年上までの学びをたしかめよう

とらえる

せつめいする文章

- 文章は、「はじめ」「中」「終わり」などの大きなまとまりに分けられる。
- 一つの段落には、ひとまとまりのないようが書かれる。

物語・詩

- 登場人物のしたことや言ったことに気をつける。
- 題名やさし絵を手がかりにする。

ふかめる

せつめいする文章

- 大事な言葉や文が何かを考える。
- したいことに合うように、文章の言葉をえらんでまとめる。

物語・詩

- まわりの様子や、登場人物がしたことを、そうぞうする。
- 登場人物が、どうしてそのことを言ったりしたりしたかを考える。

まとめる

- 書かれていることと、自分の知っていることなどをつなげて、感想や考えをまとめる。

ひろげる

- 感じたことや思ったことをつたえ合い、友だちとちがいがあることに気づく。

じょうほう

考えるときに使おう

分ける・くらべる

分ける

なかま分けしたときは、次のような言葉で、分かりやすくつたえることができます。

- ――は、――のなかまです。
- ――は、三つのなかまに分けることができます。

5

同じ物事でも、分け方は一つではありません。どんな見方で分けたかをつたえましょう。

「はんで意見をまとめよう」 38ページ

くらべる

くらべたときは、次のような言葉で、分かりやすくつたえることができます。

- ――と――をくらべてみると、――。
- ――というところは同じですが、――というところがちがいます。

5

物事は、いろいろな点からくらべることができます。どんな点でくらべたのかをつたえましょう。

「ちいちゃんのかげおくり」 26ページ

10

つづけてみよう

日記を読み返そう

日記をつづけて書いていると、自分がどんなことにきょうみがあるのかが、よく分かります。書いたものを、ときどき読み返してみましょう。

また、「友だちにも知ってもらいたいな。」と思う日の日記をえらんで、友だちに読んでもらいましょう。読んだ人は、感想をふせんに書いて、はってもいいですね。

■感想のれい

山村さんが、さかあがりの練習をしているところを、ぼくも見ていたよ。できるようになってよかったね。

わたしの日記には、きゅうしょくのことがよく出てくるよ。

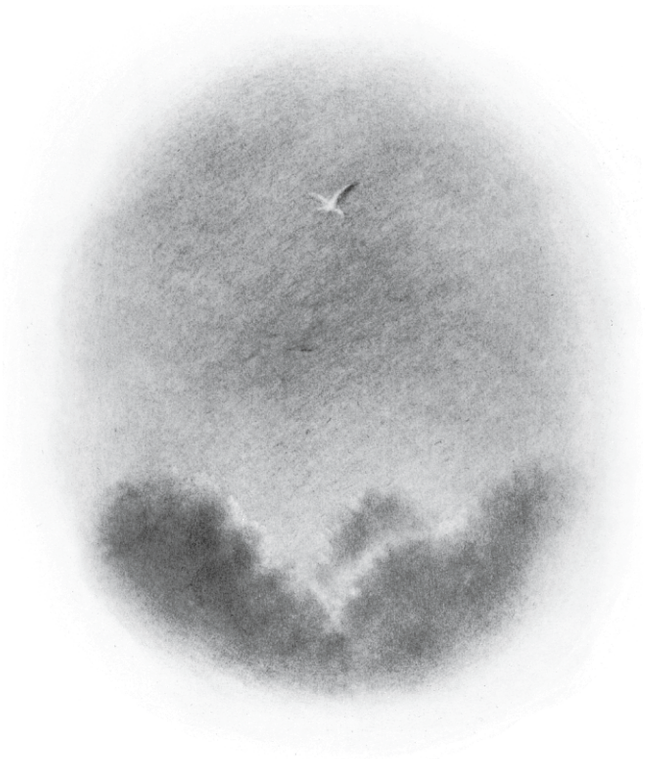
ぼくは、友だちと遊んだときのことをよく書いている。

読む

場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう

1 ちいちゃんのかげおくり

「かげおくり」という遊びを知っていますか。「ちいちゃん」にとって、それはどんな遊びなのでしょう。そして、「ちいちゃん」には、どんなことが起こるのでしょう。



これまでの学習

- 場面のようすや、登場人物の気もちをそうぞうする（きつつきの商売）……上28ページ
- 登場人物のへんかに気をつけて読む（まいごのかぎ）……上84ページ

ちいちゃんのかげおくり

あまん きみこ 作
上野 紀子 絵

「かげおくり」って遊びをちいちゃんに教えてくれたのは、お父さんでした。

出征する前の日、お父さんは、ちいちゃん、お兄ちゃん、お母さんをつれて、先祖のはかまいりに行きました。その帰り道、青い空を見上げたお父さんが、つぶやきました。

「かげおくりのよくできそうな空だなあ。」

「えっ、かげおくり。」

と、お兄ちゃんがきき返しました。

5

起こる。

出征
へいたいになって、ぐんたいに入り、いくさ（せんそう）に行くこと。

◆お父さん

◆お兄ちゃん

「かげおくりって、なあに。」

と、ちいちゃんもたずねました。

「十、数える間、かげぼうしをじっと見つめるのさ。十、と言ったら、空を見上げる。すると、かげぼうしがそっくり空にうつって見える。」

と、お父さんがせつめいしました。

「父さんや母さんが子どものときに、よく遊んだものさ。」

「ね。今、みんなでやってみましょうよ。」

と、お母さんが横から言いました。

ちいちゃんとお兄ちゃんを中にして、四人は

5　10

手をつなぎました。そして、みんなで、かげぼうしに目を落としました。

「まばたきしちゃ、だめよ。」

と、お母さんがちゅういしました。

「まばたきしないよ。」

ちいちゃんとお兄ちゃんが、やくそくしました。

「ひとうつ、ふたあつ、みいっつ。」

と、お父さんが数えだしました。

「ようっつ、いつううつ、むうっつ。」

と、お母さんの声もかさなりました。

「ななあつ、やあっつ、ここのうつ。」

ちいちゃんとお兄ちゃんも、いっしょに数えだしました。

「とお。」

目の動きといっしょに、白い四つのかげぼうしが、すうっと空に上がりました。

「すごうい。」

と、お兄ちゃんが言いました。

「すごうい。」

と、ちいちゃんも言いました。

「今日の記念写真だなあ。」

と、お父さんが言いました。

「大きな記念写真だこと。」

と、お母さんが言いました。

次の日、お父さんは、白いたすきをかたから

ななめにかけ、日の丸のはたに送られて、列車に乗りました。
「体の弱いお父さんまで、いくさに行かなければならないなんて。」
お母さんがぽつんと言ったのが、ちいちゃんの耳には聞こえました。
ちいちゃんとお兄ちゃんは、かげおくりをして遊ぶようになりました。ばんざいをしたかげおくり。かた手をあげたかげおくり。足を開いたかげおくり。いろいろなかげを空に送りました。
けれど、いくさがはげしくなって、かげおくりなどできなくなりました。この町の空にも、しょういだんやばくだんをつんだひこうきが、とんでくるようになりました。そうです。広い空は、楽しい所ではなく、とてもこわい所にかわりました。
夏のはじめのある夜、くうしゅうけいほうのサイレンで、ちいちゃんたちは目がさめました。

列車
乗る

しょういだん
たてものをやきはらうために作られたばくだん。

くうしゅうけいほう
てきのひこうきによるこうげきを知らせる合図。

「さあ、急いで。」
お母さんの声。
外に出ると、もう、赤い火が、あちこちに上がっていました。
お母さんは、ちいちゃんとお兄ちゃんを両手につないで、走りました。
風の強い日でした。
「こっちに火が回るぞ。」
「川の方ににげるんだ。」
だれかがさけんでいます。
風があつくなってきました。ほのおのうずが追いかけてきます。お母さんは、ちいちゃんをだき上げて走りました。

急ぐ

追いかける

「お兄ちゃん、はぐれちゃだめよ。」
お兄ちゃんがころびました。足から血が出ています。ひどいけがです。お母さんは、お兄ちゃんをおんぶしました。
「さあ、ちいちゃん、母さんとしっかり走るのよ。」
けれど、たくさんの人に追いぬかれたり、ぶつかったり――、ちいちゃんは、お母さんとはぐれました。
「お母ちゃん、お母ちゃん。」
ちいちゃんはさけびました。
そのとき、知らないおじさんが言いました。
「お母ちゃんは、後から来るよ。」
そのおじさんは、ちいちゃんをだいて走ってくれました。

○血

暗い橋の下に、たくさんの人が集まっていました。ちいちゃんの目に、お母さんらしい人が見えました。
「お母ちゃん。」
と、ちいちゃんがさけぶと、おじさんは、
「見つかったかい。よかった、よかった。」
と下ろしてくれました。
でも、その人は、お母さんではありませんでした。
ちいちゃんは、ひとりぼっちになりました。ちいちゃんは、たくさんの人たちの中でねむりました。
朝になりました。町の様子は、すっかりかわっています。あちこち、けむりがのこっています。どこがうちなのか――。

○暗い　○橋

「ちいちゃんじゃないの。」
という声。ふり向くと、はす向かいのうちのおばさんが立っています。
「お母ちゃんは。お兄ちゃんは。」
と、おばさんがたずねました。ちいちゃんは、なくのをやっとこらえて言いました。
「おうちのとこ。」
「そう、おうちにもどっているのね。おばちゃん、今から帰るところよ。いっしょに行きましょうか。」
おばさんは、ちいちゃんの手をつないでくれました。二人は歩きだしました。
家は、やけ落ちてなくなっていました。
「ここがお兄ちゃんとあたしの部屋。」

ざつのう
いろいろな物を入れてかたにかける、ぬので作ったかばん。

ほしいい
ごはんをほしてかわかした食べ物。

ぼうくうごう
ばくだんなどから身をまもるためにほった、大きなあな。

◆部屋

ちいちゃんがしゃがんでいると、おばさんがやって来て言いました。
「お母ちゃんたち、ここに帰ってくるの。」
ちいちゃんは、深くうなずきました。
「じゃあ、だいじょうぶね。あのね、おばちゃんは、今から、おばちゃんのお父さんのうちに行くからね。」
ちいちゃんは、また深くうなずきました。
その夜、ちいちゃんは、ざつのうの中に入れてあるほしいいを、少し食べました。そして、こわれかかった暗いぼうくうごうの中で、ねむりました。
「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きっと帰ってくるよ。」
くもった朝が来て、昼がすぎ、また、暗い夜が来ま

した。ちいちゃんは、ざつのうの中のほしいいを、また少しかじりました。そして、こわれかかったぼうくうごうの中でねむりました。

明るい光が顔に当たって、目がさめました。

「まぶしいな。」

ちいちゃんは、暑いような寒いような気がしました。ひどくのどがかわいています。いつのまにか、太陽は、高く上がっていました。

そのとき、

「かげおくりのよくできそうな空だなあ。」

というお父さんの声が、青い空からふってきました。

「ね。今、みんなでやってみましょうよ。」

というお母さんの声も、青い空からふってきました。

○暑い
○寒い

ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がると、たった一つのかげぼうしを見つめながら、数えだしました。

「ひとうつ、ふたあつ、みいっつ。」

いつのまにか、お父さんのひくい声が、かさなって聞こえだしました。

「よっつ、いっつつ、むっつ。」

お母さんの高い声も、それにかさなって聞こえだしました。

「ななつ、やあっつ、ここのうつ。」

お兄ちゃんのわらいそうな声も、かさなってきました。

「とお。」

ちいちゃんが空を見上げると、青い空に、くっきりと白いかげが四つ。

「お父ちゃん。」

ちいちゃんはよびました。

「お母ちゃん、お兄ちゃん。」

そのとき、体がすうっとすきとおって、空にすいこまれていくのが分かりました。

一面の空の色。ちいちゃんは、空色の花ばたけの中に立っていました。見回しても、見回しても、花ばたけ。

「きっと、ここ、空の上よ。」

と、ちいちゃんは思いました。

「ああ、あたし、おなかがすいて軽くなったから、ういたのね。」

軽い。

そのとき、向こうから、お父さんとお母さんとお兄ちゃんが、わらいながら歩いてくるのが見えました。

「なあんだ。みんな、こんな所にいたから、来なかったのね。」

ちいちゃんは、きらきらわらいだしました。わらいながら、花ばたけの中を走りだしました。

夏のはじめのある朝、こうして、小さな女の子の命が、空にきえました。

命。

それから何十年。町には、前よりもいっぱい家がたっています。ちいちゃんが一人でかげおくりをした所は、小さな公園になっています。

青い空の下、今日も、お兄ちゃんやちいちゃんぐらいの子どもたちが、きらきらわらい声を上げて、遊んでいます。

あまん きみこ

一九三一年、中国に生まれる。作家。「車のいろは空のいろ」「おにたのぼうし」などの作品がある。

見通しをもとう

場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう

・動作を表す言葉や、様子を表す言葉に気をつけましょう。
・場面の様子や出来事をくらべて読み、感じたことをまとめましょう。

会話文・地の文
かぎ（「　」）でしめしている人物の言葉を会話文、ほかのところを地の文という。
159ページ

とらえよう

●この物語は、一行空きによって場面が分かれています。第一場面と第四場面の「かげおくり」の様子をくらべましょう。同じところはありますか。ちがうところはどこでしょう。 1

●二つの「かげおくり」の間には、どんな出来事があったでしょう。その間に、「ちいちゃん」のまわりからうしなわれていったものは、何でしょう。 2

ふかめよう

●第四場面の「かげおくり」について考えましょう。
・「ちいちゃん」の気持ち。
・読み手である、あなたの気持ち。

●第五場面があるのとないのとでは、どうちがいますか。第四場面までとくらべたり、第四場面にある表現を見つけたりして考えましょう。

まとめよう

●「ちいちゃんのかげおくり」を読んで感じたことを、理由とともに文章にまとめましょう。 3

ひろげよう

●友だちと読み合い、自分の感じ方とにているところや、ちがうところをつたえ合いましょう。友だちの文章を読んで、あなたの考えがかわったところはありますか。

ふりかえろう

□ 知る　場面の様子をそうぞうするとき、どのような言葉に気をつけましたか。
□ 読む　くわしく読むことで、この物語に対する考えは、はじめとどうかわりましたか。
□ つなぐ　感じたことを文章にまとめてよかったと思うのは、どんなことですか。

動作
第一場面

1 くらべる　「分ける・くらべる」9ページ
二つの場面の、次のようなことをくらべましょう。
・時と場所
・登場人物
・会話文と、その前後の地の文

2 言葉
次のような言葉の使われ方に気をつけましょう。人物のしたことや気持ち、まわりの様子をそうぞうする手がかりになります。
・「言う」「つぶやく」「きき返す」のように、にている動作でも、様子や気持ちにちがいのある言葉
・それぞれの場面に出てくる場所の様子を表す言葉

3 まとめ方のれい

わたしは、「ちいちゃんのかげおくり」は、〈自分が感じていることを短い言葉で表す。〉
・切ない　・悲しい　・温かい　など
物語だと感じました。
その理由は、――
〈物語のどこからそう感じるのかを、くわしく書く。〉
・物語の中の言葉や場面
・人物の行動や会話、気持ち
・人物やまわりの様子のうつりかわり　など

「言葉のたから箱」157ページ

たいせつ

物語に対する感想をもつ

- 場面と場面をくらべて、人物の様子や出来事のちがいと、その理由について考える。
- 物語をだれの立場から読み、出来事をどうとらえるかによって、物語に対する感想はちがってくる。

いかそう

物語の感想をつたえるときは、理由も明らかにしましょう。

この本、読もう

せんそうがえがかれた物語を、様子をそうぞうしながら読んでみましょう。

えんぴつびな
くうしゅうで家をなくしたわたしに、シンペイちゃんは小さなおひなさまをくれました。でも次の日——。

かわいそうな　ぞう
せんそうのくるしみは、人間だけではなく、何も知らない動物園のぞうにもおそいかかりました。

おかあさんの木
せんそう中もその後も、たくさんの人がきずつき、くるしみました。

- 明らか

起（キ）　おきる　おこる　おこす
列（レツ）
乗（ジョウ）　のる　のせる
急（キュウ）　いそぐ
追（ツイ）　おう
血（ケツ）
暗（アン）　くらい
橋（キョウ）　はし
暑（ショ）　あつい
寒（カン）　さむい
軽（ケイ）　かるい
命（メイ）　いのち
第（ダイ）

153ページ

言葉

修飾語を使って書こう

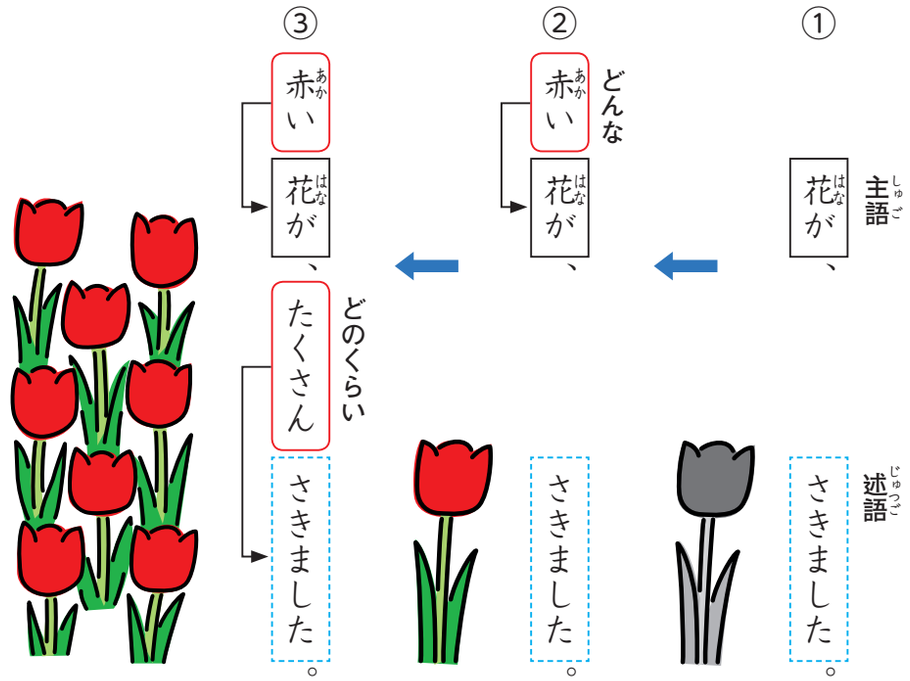
花が、さきました。

主語　花が、
述語　さきました。

青山さんは、一年生のときに書いた日記を読み返しています。主語と述語のそろった一文ですが、どんな花だったのか、よく分かりません。花の様子をくわしく書くには、どうすればよいでしょうか。

文の中で、「何が（は）」「だれが（は）」に当たる言葉を主語、「どうした（どうする）」「どんなだ」「なんだ」に当たる言葉を述語といいます。

- 主語



上の三つの文では、同じ主語と述語が使われています。そして、□の部分をつけ足すことで、文の意味が定まって、だんだんと分かりやすい文になっています。□の、「どんな」「どのくらい」のように、文の意味をくわしくする言葉を、**修飾語**といいます。

③の文で、「赤い」は、主語の「花が」に、「たくさん」は、述語の「さきました」に係って、それぞれの意味をくわしくしています。

▼③の文をもっとくわしくするとしたら、どんな修飾語をくわえることができるでしょうか。また、その修飾語は、どの言葉に係るでしょうか。

1 次の□の言葉は、どの言葉に係っているでしょうか。友だちと話しましょう。

- わたしは、
- いつ きのう
- どこの 九州の
- だれに おじいちゃんに
- 何を 手紙を
- 書きました。

- だれの 弟の
- 風船が、
- 何の 屋根の
- どこを 上を
- どのように ふわふわと
- とぶ。

これらの、「いつ」「どこの」「だれに」「何（どこ）を」「だれ（何）の」「どのように」に当たる言葉も、修飾語です。

2 次の文に修飾語をくわえて、文をくわしくしましょう。

- 水が、流れる。
- 荷物が、おもい。
- 山田君は、守った。
- かえるは、生き物だ。

3 下の写真の様子を、修飾語を使ってくわしく書きましょう。

「言葉のたから箱」 157ページ

いかそう

人と話したり、感想文などを書いたりするときには、修飾語を使って、つたえたいことが相手によく分かるようにしましょう。

主 シュ ぬし おも　州 シュウ　根 コン ね　流 リュウ ながれる ながす　荷 に　君 クン きみ　守 シュ スまもる

九州 ○　風船 ●　屋根 ○　流れる ○　荷物 ○　山田君 ○　守る ○

153ページ

きせつの言葉3

秋のくらし

虫の声

（文部省唱歌）

あれ松虫が　鳴いている
ちんちろ　ちんちろ　ちんちろりん
あれ鈴虫も　鳴き出した
りんりんりんりん　りいんりん
秋の夜長を　鳴き通す
ああおもしろい　虫の声

5

生活の中で、秋らしさを感じることはありますか。身の回りで見つけた、秋を感じたものについて書きましょう。

きのうは、夕食に新米を食べました。ことしとれたお米だそうです。つやつやしていて、味は、いつも食べているお米よりもあまい気がしました。

5

◆「○○の秋」という言い方をすることがあります。

スポーツの秋

しょくよくの秋

げいじゅつの秋

新米

◆秋はしゅうかくのきせつといわれ、いろいろな食べ物がゆたかに実ります。

りんご　ぶどう　かき

さつまいも　くり

話す・聞く

進行を考えながら話し合おう

はんで意見をまとめよう

上田さんのクラスでは、一年生に絵本の読み聞かせをすることになりました。それぞれのはんで、読み聞かせをする本を一さつ決める話し合いをします。ここでは、意見をまとめる話し合いのしかたについて、考えてみましょう。

●たしかめよう

「三年上までの学びをたしかめよう」 5ページ

「山小屋で三日間すごすなら」 上116ページ

●学習の進め方

決めよう 集めよう ◀ じゅんびしよう ◀ 話そう 聞こう ◀ つなげよう

1 目的と決めることをたしかめ、自分の考えをもつ。

2 役わりを決め、進め方をたしかめる。

3 はんで話し合う。

4 話し合いのしかたで、よかったところをつたえ合う。

●ふりかえろう

1 目的と決めることをたしかめ、自分の考えをもとう。

目的　一年生が本をすきになってくれるような、読み聞かせをする。

決めること　どの本を読むか。

自分の考えを、ふせんなどに書いておきましょう。

5

2 役わりを決め、進め方をたしかめよう。

話し合いの役わりには、司会やきろく係、時間を計る係などがあります。さんかする人全員が、どのように話し合いを進めていくかが分かるように、役わりと進め方をノートなどに書きましょう。

10

3 はんで話し合おう。

役わりと進め方にそって話し合います。

次の話し合いの様子から、どんなことに気をつければよいかを考えましょう。

■ノートのれい

〈役わり〉
・司会 上田　・きろく 森川　・時間 高山

〈進め方〉
① 意見を出し合う。
② 決め方をたしかめる。
③ 決め方にそって話し合う。
④ 話し合いをまとめる。

5

○進行（シン）
○役わり（ヤク）
●進め方（すすめかた）
司会（しかい）　話し合いを進めること。また、進める人のこと。
160ページ
●計る（はかる）

決め方をたしかめる

司会　上田

前の時間は、みんなで、読みたい本を出し合いました。今日は、その中から一さつを決めます。話し合う時間は二十分です。高山さん、時間を計ってください。読み聞かせの目的は、「一年生が本をすきになってくれるような、読み聞かせをする。」です。読み聞かせの時間は五分なので、五分で読める本から目的に合うものをえらびましょう。

まず、どんな本が目的に合うか、意見がある人はいますか。

谷口

わたしは、聞いて楽しい気持ちになるお話がいいと思います。そのほうが、本をすきになってくれると思うからです。

司会

たしかに、聞いて楽しい気持ちになるお話だと、本をすきになってくれそうですね。他に意見はありますか。――

それでは、五分で読める本の中から、聞いて楽しい気持ちになるものをえらびましょう。みんなが考えを書いたふせんを、きろく係の森川さんが整理してくれているので、見てみましょう。

- 話し合いの目的と進め方をたしかめる。
- 何について意見を出してもらうのかをはっきりさせる。
- 発言するときは、考えとその理由を言う。
- 発言をうながす。
- ところどころで、そこまでに出た意見を整理する。

■ふせんを使った整理のれい

〈どの本をえらぶか〉

① 五分で読める

読める

三びきのやぎのがらがらどん

これはのみのぴこ

読めない

ないた赤おに

手ぶくろを買いに

決め方にそって話し合う

司会　高山（時間）

…（五分で読める本をかくにんする）

では、五分で読めるこの五さつのうち、どれがいいでしょうか。

わたしは、「三びきのやぎのがらがらどん」がいいです。絵にはくりょくがあって、大すきでした。

司会　谷口

わたしも大すきでした。ようち園でげきをして、やぎの役をしたことをおぼえています。

ちょっと待ってください。少し話がそれています。今は、聞いて楽しい気持ちになるお話かどうかを話し合いましょう。

森川（きろく）

ぼくは、「これはのみのぴこ」がいいと思います。少しずつ言葉がふえて文が長くなっていくお話なので、音読のしかたをくふうすると、聞いていて楽しいのではないでしょうか。

高山

「これはのみのぴこ」もおもしろいから、さんせいです。森川さんは、どんな音読ができそうだと考えていますか。

- はじめにたしかめた決め方にしたがって、話し合いを進める。
- 話がそれたときは、元にもどす。
- 友だちの意見と同じところと、ちがうところをはっきりさせ、分からないことはしつもんする。

話し合いをまとめる

高山

そろそろ二十分たちます。まとめに入りませんか。

谷口

森川さんが言ったように、「これはのみのぴこ」は、一年生といっしょに声に出して楽しむことができそうですね。目的にも合います。

司会

…

一年生に読む絵本は、「これはのみのぴこ」に決まりました。これから、みんなで読み聞かせの練習をしましょう。

- 進行にそって、時間をたしかめながら発言する。
- さいごに、決まったことをたしかめる。

○他

●理由が目的と合っていないときは、目的に合う理由を引き出すしつもんをしましょう。

高山

「じごくのそうべえ」がいいです。短い時間で読めるし、お気に入りの本だからです。

森川

ぼくは「じごくのそうべえ」を読んだことがないのですが、どういうところが、一年生に本をすきになってもらえそうだと思いますか。

●意見がまとまらないときは、決め方をたしかめましょう。

谷口

司会

わたしは、ぜったいに、「にんきもののひけつ」がいいです。

「にんきもののひけつ」は、ぼくもすきです。でも、さっきたしかめた決め方の一つ目は、「五分で読めること」だったから、――

●意見がたくさん出てきたときは、考えを書いたふせんを動かしながら、話し合いの様子を整理しましょう。

使ってみたい司会の言葉

〈意見をきくとき〉
- 理由を教えてください。
- くわしくせつめいしてください。
- 他に、意見はありませんか。

〈意見が出ないとき〉
- 少し考える時間を取りましょう。
- ○○さん、どんなところにさんせいなのかを言ってください。

〈意見をまとめるとき〉
- ここまでに出た意見は○つです。
- みんなの意見の同じところと、ちがうところを整理してみましょう。

「分ける・くらべる」 9ページ

4 話し合いのしかたで、よかったところをつたえ合おう。

■発言のしかた

■話し合いの整理のしかた

ふりかえろう

□知る　どんな言葉を使うと、話し合いがうまく進むと思いましたか。

□話す・聞く　意見がまとまるように、自分の役わりの中でどのようなことに気をつけましたか。

□つなぐ　友だちの意見を聞くときや、話し合いをするときには、何に気をつけたいですか。

たいせつ　進行を考えながら話し合う

●次のことを考えながら話し合うと、話し合いが進みやすくなる。
- 話し合いの目的や進め方と、自分の役わり。
- どうやって決めるのか。
- 友だちの考えと同じところ、ちがうところ。

●司会は、きろく係や時間を計る係ときょうりょくして、出た意見を整理しながら進行する。

いかそう

係活動や学習の中で何かを決めるときには、役わりを決めて話し合いましょう。

進む・すすめる　役　他

154ページ

漢字の広場
2年生で習った漢字
4

絵の中の町に住んでいるつもりで、町の様子をせつめいする文を書きましょう。

〈れい〉 わたしの家は、町の北の方にあります。近所に、犬をかっている家があります。

2

読む　書く

れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう

すがたをかえる大豆
じょうほう
科学読み物での調べ方
食べ物のひみつを教えます

大豆がすがたをかえるとは、どういうことでしょうか。筆者のせつめいのしかたのくふうを見つけましょう。そして、あなたも食べ物についてせつめいする文章を書きましょう。

これまでの学習

- 段落とその中心をとらえる（言葉で遊ぼう・こまを楽しむ）……上58ページ
- 組み立てを考えて、ほうこくする文章を書く（仕事のくふう、見つけたよ）……上96ページ

すがたをかえる大豆

国分 牧衛

わたしたちの毎日の食事には、肉・やさいなど、さまざまなざいりょうが調理されて出てきます。その中で、ごはんになる米パンやめん類になる麦の他にも、多くの人がほとんど毎日口にしているものがあります。なんだか分かりますか。それは、大豆です。大豆がそれほど食べられていることは、意外と知られていません。大豆は、いろいろな食品にすがたをかえていることが多いので気づかれないのです。

大豆は、ダイズという植物のたねです。えだについたさやの中に、二つか三つのたねが入っています。ダイズが十分に育つとさやの中のたねはかたくなります。これがわたしたちが知っている大豆です。かたい大豆は、そのままでは食べにくく、消化もよくありません。そのため、昔からいろいろ手をくわえて、おいしく食べるくふうをしてきました。

○大豆（ズ）
○筆者（シャ）
○育つ（そだつ）
○消化（ショウカ）

いちばん分かりやすいのは、大豆をその形のままいったり、にたりして、やわらかく、おいしくするくふうです。いると、豆まきに使う豆になります。水につけてやわらかくしてからにると、に豆になります。正月のおせちりょうりに使われる黒豆も、に豆の一つです。に豆には、黒、茶、白など、いろいろな色の大豆が使われます。

次に、こなにひいて食べるくふうがあります。もちやだんごにかけるきなこは、大豆をいって、こなにひいたものです。

また、大豆にふくまれる大切なえいようだけを取り出して、ちがう食品にするくふうもあります。大豆を一ばん水にひたし、なめらかになるまですりつぶします。これに水をくわえて、かきまぜながら熱します。その後、ぬのを使って中身をしぼり出します。しぼり出したしるににがりというものをくわえると、かたまって、とうふになります。

さらに、目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふうもあります。ナットウキンの力をかりたのが、なっとうです。むした大豆にナットウキンをくわえ、あたたかい場所に一日近くおいて作ります。

●豆まき

○取り出す

コウジカビの力をかりたものが、みそ
しょうゆです。みそを作るには、まず、む
た米か麦にコウジカビをまぜたものを用意
ます。それと、しおを、にてつぶした大豆
くわえてまぜ合わせます。ふたをして、風
しのよい暗い所に半年から一年の間おい
おくと、大豆はみそになります。しょうゆ
よくにた作り方をします。

　これらの他に、とり入れる時期や育て方
くふうした食べ方もあります。ダイズを、
だわかくてやわらかいうちにとり入れ、さ
ごとゆでて食べるのが、えだ豆です。また
、やまを　も、て通にしし や

時
○期キ

ダイズのたねを、日光に当てずに水だけ
やって育てると、もやしができます。

　このように、大豆はいろいろなすがたで
べられています。他の作物にくらべて、こ
なに多くの食べ方がくふうされてきたのは
大豆が味もよく、畑の肉といわれるくら
たくさんのえいようをふくんでいるからで
そのうえ、やせた土地にも強く、育てやす
ことから、多くのちいきで植えられたた
でもあります。大豆のよいところに気づき
食事に取り入れてきた昔の人々のちえにお
ろかされます。

日
●光コウ

○畑はたけ

国分牧衛
一九五〇年、岩手県生まれ。農学者。ダイズやイネのけんきゅうをしている。

見通しをもとう

れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう

- 筆者が、どのようにれいをあげているかを考えて読みましょう。
- れいの書き方をくふうして、せつめいする文章を書きましょう。

とらえよう

●文章全体の組み立てについて考えましょう。

- 全体を「はじめ」「中」「終わり」に分けましょう。
- 筆者が、「中」であげている具体的なれいを、ノート に整理しましょう。

1 2

●「いる」「にる」のような、大豆に手をくわえるときの言葉の意味を、国語辞典でたしかめましょう。

ふかめよう

●「すがたをかえる大豆」には、「はじめ」に「問い」がありません。「問い」を入れるとしたら、どこに、どんな文を入れますか。

●「中」の書かれ方について考えましょう。

- それぞれの段落の大事な文は、どこにあるか。
- どんなじゅんじょで、れいをあげているか。

●筆者のせつめいのしかたには、どのようなくふうがあるでしょう。次のことから考えましょう。

- 文章全体の組み立てと、それぞれの段落の組み立て
- 言葉の使い方
- 写真の使い方　など

まとめよう

●「食べ物のひみつを教えます」（51ページ）では、食べ物について調べて、せつめいする文章を書きます。学校図書館などで、食べ物についての本を読んでみましょう。そして、感想をまとめましょう。

3

ひろげよう

●読んだ本の感想を、友だちにつたえましょう。

- はじめて知ったこと、他の人に知らせたいこと。
- せつめいのしかたで分かりやすいところ、くふうされていたところ、まねしたいところ。

1 段落の組み立て

はじめ	これからせつめいする話題を、おおまかにしめしている。
中	「はじめ」にしめした話題について、具体的なれいをあげて、せつめいしている。
終わり	全体をまとめている。

※くうらんに、段落の番号を書きましょう。

2 ノートのれい

れい	おいしく食べるくふう
ー	その形のままいったり、にたりして、やわらかくする。
	食品 ・豆まきの豆 ・に豆

3 食べ物について書かれた本

すがたをかえる食べものずかん

魚がへんしん！

米・麦からつくる食べもの

野菜・くだものからつくる食べもの

たいせつ

話題と、れいの書かれ方をとらえる

- 題名や「はじめ」から、話題をたしかめる。
- 「中」のれいと話題とのつながりをとらえ、それぞれの段落の役わりを考える。
- れいをあげるじゅんじょや写真の使い方など、筆者のれいの書き方に気をつける。

じょうほう

調べるときに使おう 科学読み物での調べ方

知りたいことを、本の中から見つける

目次やさくいんで、知りたいことがのっているページを見つけたら、自分にひつようなところを中心に読みましょう。

奥付をたしかめる

調べたことをきろくするときには、「奥付」を見て、❶～❹のことも書きましょう。

■奥付のれい

食べものはかせになろう！❷
❶ 米・麦からつくる食べもの
❷ 2010年3月　第1刷発行
❸ 監修　石谷孝佑
❹ 発行所　株式会社○○社
〒○○○-○○○○
東京都○○区○-○

❶ 書名　❷ 発行年
❸ 作者・筆者　❹ 出版社名

奥付
その本の書名や作者・筆者名、発行年、発行者などを記したページ。

160ページ

食べ物のひみつを教えます

「すがたをかえる大豆」のように、すがたをかえて食品になるざいりょうについて、せつめいする文章を書きましょう。書いた文章は、友だちに読んでもらいましょう。

1 ざいりょうを決め、調べよう。

下にあげたざいりょうは、いろいろな食品にすがたをかえて、食べられています。こうしたざいりょうから一つをえらび、おいしく食べるくふうや食品のれいを調べましょう。「すがたをかえる大豆」の学習で読んだ本を、読み返してもいいですね。

●学習の進め方

1 ざいりょうを決め、調べる。
2 調べたないようを整理する。
3 組み立てと、れいの書き方を考える。
4 下書きを書いて読み返す。
5 清書する。
6 感想をつたえ合う。

■調べるざいりょうのれい

米　麦　とうもろこし
牛乳　魚　いも

•牛乳

2 調べた ないようを整理しよう。

おいしく食べるくふうや食品のれいを、図や表にして整理しましょう。

整理してみて、さらに知りたいことがあれば、べつの本で調べたり、家の人にきいたりしましょう。学校の調理師さんや、えいよう士さんにたずねてもいいですね。

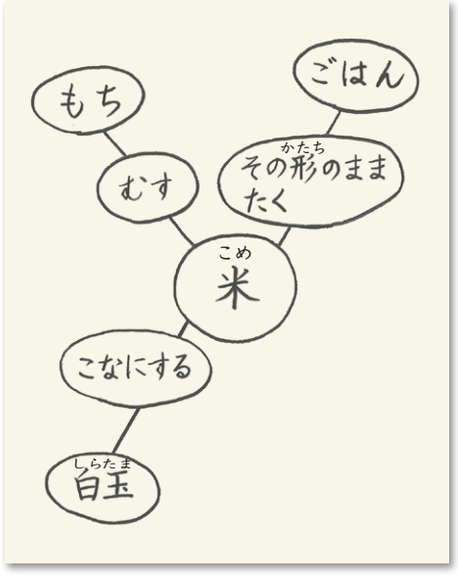
3 組み立てと、れいの書き方を考えよう。

「はじめ」「中」「終わり」に分けて、文章の組み立てを考えましょう。

「すがたをかえる大豆」のように、分かりやすいれいのあげ方になるよう、くふうしましょう。

■整理のしかたのれい

〈図で整理する〉

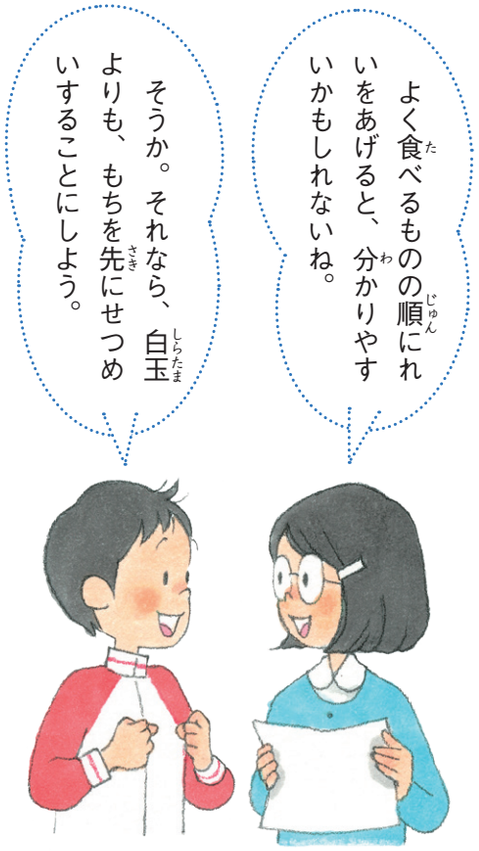


〈表で整理する〉

ざいりょう……米

おいしく食べるくふう	・ごはん	・白玉
・その形のまま たく		
・こなにする		

組み立てを考えたら、友だちと読み合い、気づいたところを助言し合いましょう。



4 下書きを書いて読み返そう。

組み立てにそって、下書きをします。「すがたをかえる大豆」の書き方のくふうを思い出して、それぞれの段落の書き方を考えましょう。

下書きは読み返して、分かりにくいところがないかたしかめましょう。

■組み立てのれい

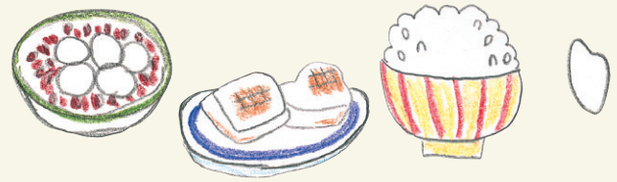
はじめ	中	終わり
・ここでせつめいする ざいりょうについて——米	・おいしく食べるくふうと、食品のれい その形のままたく——ごはん こなにする——白玉 むす——もち	・まとめ

ぎゃくにする。

▼助言をうけて、組み立てをかえるときは、どうかえるかを書いておきましょう。

5 清書しよう。

下書きをもとに、ていねいに清書しましょう。



いろいろなすがたになる米

上田　はると

米には、いろいろな食べ方のくふうがあります。

まず、米をその形のままたいて食べるくふうがあります。

米をといで、水につけてからたくと、ごはんになります。

次に、むして食べるくふうがあります。もち米という米を

むして、うすときねでつくと、もちになります。もちつきの

きかいを使うこともあります。

さらに、こなにして食べるくふうもあります。もち米をこ

なにしたものに、水を入れて練ります。それをゆでると、白

玉になります。

このように、米は、くふうされて、いろいろなすがたに

なって食べられているのです。

15　10　5

終わり　中　はじめ

6 感想をつたえ合おう。

友だちと文章を読み合い、感想や文章のよいところをつたえましょう。

■書き方について

■ないようについて

たいせつ　れいをあげて書く

- ないようのまとまりごとに、段落を分ける。
- つたえたいことに合ったれいをあげる。
- れいをあげるじゅんじょや、絵や写真のしめし方をくふうする。

いかそう

社会や総合的な学習の時間などで、調べたことをせつめいするときには、読み手に分かりやすいれいをあげるようにしましょう。

ふりかえろう

- □ 知る
- □ 読む
- □ 書く
- □ つなぐ

何に気をつけて本を読みましたか。

れいのあげ方について、どんなくふうに気がつきましたか。

気がついたくふうを、自分の文章にどういかしましたか。

せつめいする文章を読んだり書いたりするとき、どんなことに気をつけたいですか。

豆（トウ・まめ）　者（シャ・もの）　育（イク・そだ・そだてる・はぐくむ）　消（ショウ・きえる・けす）　取（シュ・とる）　期（キ）　畑（はた・はたけ）

154ページ

つたわる言葉

ことわざ・故事成語

「わらう門には福来たる」という言葉を耳にしたことはありますか。この言葉には、いつもにこにことわらってくらしている人のもとには、しぜんとよいことがやって来るという意味があります。

このように、生きていくうえでのちえや教えを、短い言葉や言い回しで表したものをことわざといいます。

5

ことわざを集めて作った「いろはがるた」

○福

○苦労

▼次のことわざの意味を、国語辞典やことわざの本を使って調べましょう。ことわざの本で調べるときは、目次やさくいんを使いましょう。

犬も歩けば
ぼうに当たる

5

わかいときの苦労は
買ってもせよ

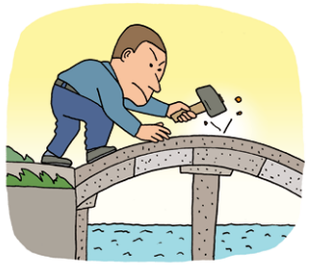
善は急げ

おびに短し
たすきに長し

ちりもつもれば
山となる

所かわれば
品かわる

石橋を
たたいてわたる



ねこの手も
かりたい

さるも木から
落ちる

ことわざにした短い言葉で、中国につたわる古い出来事や物語が元になってできた言葉を、故事成語といいます。

五十歩百歩

「知ると楽しい『故事成語』」146ページ

〈意味〉多少のちがいはあるものの、大きなちがいではないこと。
（孟子という人物が王様にした、たとえ話が元になってできた言葉。）

故事成語には、「矛盾」「推敲」「漁夫の利」など、今でも使われている言葉がたくさんあります。意味とともに、どのような由来があるのかも調べてみましょう。

- 多少

ことわざ辞典を作ろう

グループで、自分たちのことわざ辞典を作ってみましょう。

① すきなことわざを、一人三つずつえらぶ。

② カードに、ことわざと意味を書く。そのことわざを使った文も考える。

〈ことわざを使った文のれい〉
- お客さんがいつもの二倍も来て、ねこの手もかりたいくらいのいそがしさだ。

③ みんなのカードを集め、どのような順でとじるかを相談し、本にする。

この本、読もう

ことわざや故事成語について書かれた本や辞典を読んでみましょう。

ことわざ絵本

小学生のまんがことわざ辞典

まんがで学ぶ故事成語

福 フク　苦 クるしい くるしむ くるしめる にがい にがる　倍 バイ　談 ダン

154ページ

- 二倍
- 相談

ことわざや故事成語の中には、時代に合わなくなったものや、使い方によって相手をいやな気持ちにさせるものもあります。気をつけて使いましょう。

言葉 漢字の意味

人形にはなをつける。

右の文を読んで、左の絵のどちらを思いうかべますか。

①

②

「はな」という言葉を漢字で書けば、どちらの意味かすぐに分かります。人形に①花をつける。②鼻をつける。

漢字は、それだけで意味も表します。同じ発音の言葉でも、意味がちがえば、使われる漢字がちがってきます。

1 絵を見て、――線のついた言葉に当てはまる漢字を書きましょう。

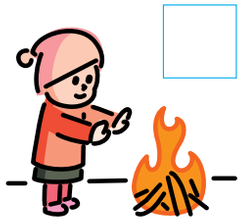
①はがきれいだ。

歯

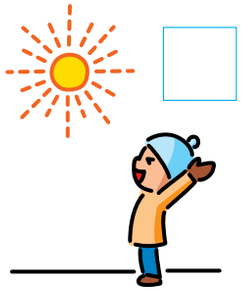
□

②ひに当たる。

□



□



○鼻　○歯　●交ぜる

次の文を読んでみましょう。

- ははははじょうぶです。
- 母は歯はじょうぶです。

漢字とかなを交ぜて書くことで、意味が分かり、文が読みやすくなります。

2 次の文の□には、（　）の中のどちらが当てはまるでしょうか。

①カイ（階・回）

- 二□の中央から、大きな物音が聞こえた。
- おじは、二□目の海外旅行に出かけた。

②キシャ（汽車・記者）

- 委員会の仕事について、学級新聞の□からインタビューをうけた。
- 昭和のはじめの駅の様子や、□の仕組みについて教わる。

③カジ（家事・火事）

- 山□の消火作業を行う。
- □のてつだいで、じゃがいもの皮むきと皿あらいをする。

3 「これまでに習った漢字」（148ページ）から、同じ読み方で、意味のちがう漢字を見つけて、それぞれの漢字で文を作りましょう。

鼻　歯　階　央　旅　駅　業　皮　皿　委　級　昭　和

154ページ

○階　○中央　海外旅行　○委員会　学級新聞　○昭和　○駅　●教わる　消火作業　○皮むき　○皿あらい

声に出して楽しもう

短歌を楽しもう

声に出して読み、言葉の調子やひびきを楽しみましょう。気に入ったものは、おぼえて言ってみましょう。

短歌は、五・七・五・七・七の三十一音で作られた短い詩です。短歌の三十一音の中には、しぜんの様子や、そこから感じられること、心に思ういろいろなことなどが表されています。

むしのねも　のこりすくなに　なりにけり
よなよなかぜの　さむくしなれば

良寛

虫の鳴き声もあまり聞こえなくなってきたなあ。夜ごとにふく風が寒くなるので。

短歌
●短歌は、一首、二首というように、「首」を使って数える。

秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

藤原敏行

秋が来たと、目に見えてはっきりとは分からなかったけれども、風の音が秋らしくて、はっとしたよ。

奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声聞く時ぞ秋は悲しき

猿丸大夫

奥深い山で紅葉を踏み分けながら鳴いている鹿の声を聞くときこそ、秋の悲しさを感じるものだなあ。

天の原振りさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも

安倍仲麿

広々とした大空をずっと遠くまで見わたしてみると、月が出ている。あれは、昔、春日の三笠山に出ていた月と同じなのだなあ。

漢字の広場
2年生で習った漢字
5

学校では、どんなことをしていますか。日記をつけるように書きましょう。

〈れい〉 理科の時間に、かん電池を使って、じっけんをした。

かん電池

読む

組み立てをとらえて、民話をしょうかいしよう

3 三年とうげ

「三年とうげ」は、どんなところでしょう。このとうげでは、どんなことが起こるのでしょうか。おもしろさを見つけながら読んでいきましょう。

これまでの学習

- 場面のようすや、登場人物の気もちをそうぞうする（きつつきの商売）……上28ページ
- 物語に対する感想をもつ（ちいちゃんのかげおくり）……28ページ

三年とうげ

李錦玉 作
朴民宜 絵

あるところに、三年とうげとよばれるとうげがありました。
あまり高くない、なだらかなとうげでした。
春には、すみれ、たんぽぽ、ふでりんどう。とうげからふもとまで
さきみだれました。れんげつつじのさくころは、だれだってため息の
出るほど、よいながめでした。
秋には、かえで、がまずみ、ぬるでの葉。とうげからふもとまで美
しく色づきました。白いすすきの光るころは、だれだってため息の出
るほど、よいながめでした。

5

ため息。

美しい。

三年とうげには、昔から、こんな言いつたえがありました。

「三年とうげで　転ぶでない。
三年とうげで　転んだならば、
三年きりしか　生きられぬ。
長生きしたけりゃ、
転ぶでないぞ。
三年とうげで　転んだならば、
長生きしたくも　生きられぬ。」

ですから、三年とうげをこえるときは、みんな、転ばないように、おそるおそる歩きました。

ある秋の日のことでした。一人のおじいさんが、となり村へ、反物を売りに行きました。

そして、帰り道、三年とうげにさしかかりました。白いすすきの光るころでした。おじいさんは、こしを下ろしてひと息入れながら、美しいながめにうっとりしていました。しばらくして、

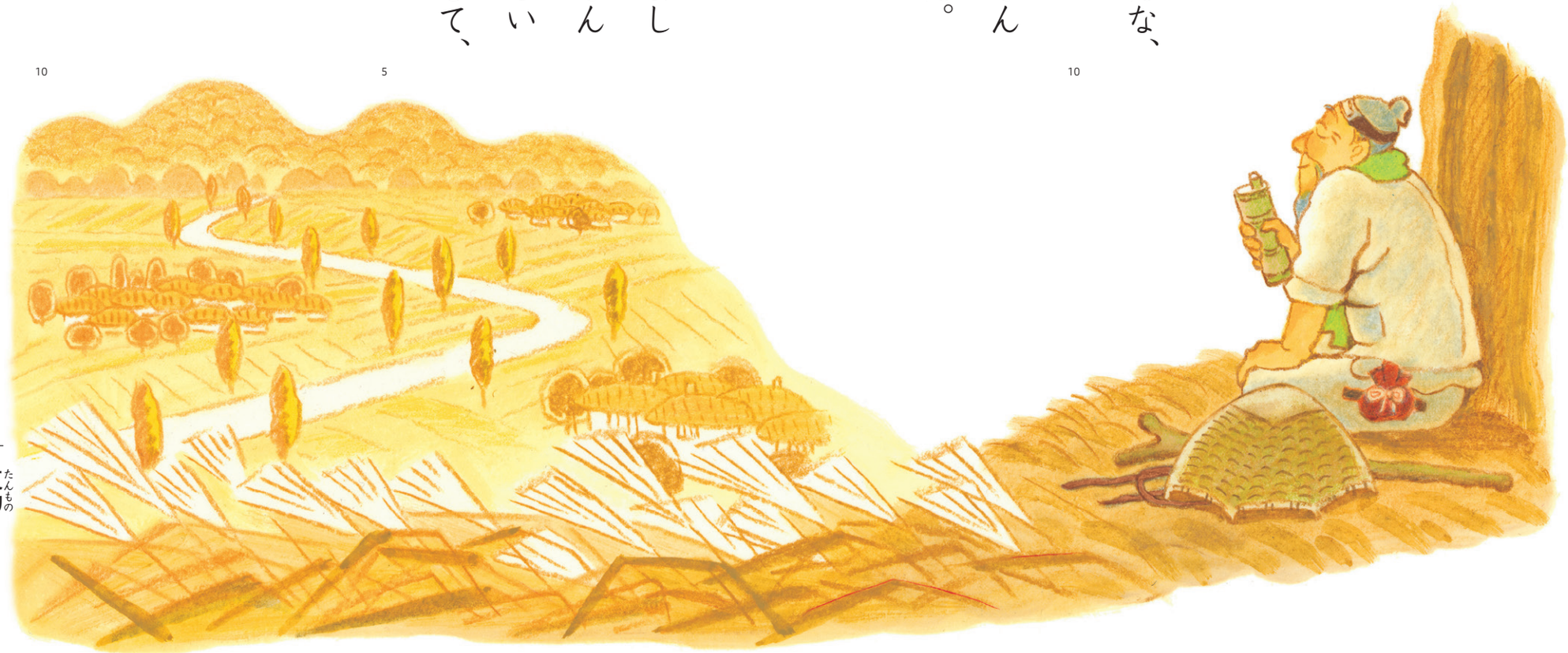
「こうしちゃおれぬ。日がくれる。」

おじいさんは、あわてて立ち上がると、

「三年とうげで　転ぶでないぞ。
三年とうげで　転んだならば、
三年きりしか　生きられぬ。」

と、足を急がせました。

お日様が西にかたむき、夕やけ空がだんだん暗くなりました。



転ぶ。

反物　着物を作るためのぬの。

ところがたいへん。あんなに気をつけて歩いていたのに、おじいさんは、石につまずいて転んでしまいました。おじいさんは真っ青になり、がたがたふるえました。

家にすっとんでいき、おばあさんにしがみつき、おいおいなきました。

「ああ、どうしよう、どうしよう。わしのじゅみょうは、あと三年じゃ。三年しか生きられぬのじゃあ。」

その日から、おじいさんは、ごはんも食べずに、ふとんにもぐりこみ、とうとう病気になってしまいました。お医者をよぶやら、薬を飲ませるやら、おばあさんはつきっきりで看病しました。けれども、おじいさんの病気はどんどん重くなるばかり。村の人たちもみんな心配しました。

そんなある日のこと、水車屋のトルトリが、みまいに来ました。

- 病気
- お医者
- 薬
- 飲む
- 重い
- 心配
- **水車屋**
  水車を使い、米や麦をこなにひく仕事をしている人。

◆真っ青

「おいらの言うとおりにすれば、おじいさんの病気はきっとなおるよ。」
「どうすればなおるんじゃ。」

おじいさんは、ふとんから顔を出しました。
「なおるとも。三年とうげで、もう一度転ぶんだよ。」
「ばかな。わしに、もっと早く死ねと言うのか。」
「そうじゃないんだよ。一度転ぶと、三年生きるんだろ。二度転べば六年、三度転べば九年、四度転べば十二年。このように、何度も転べば、ううんと長生きできるはずだよ。」
おじいさんは、しばらく考えていましたが、うなずきました。
「うん、なるほど、なるほど。」
そして、ふとんからはね起きると、三年とうげに行き、わざとひっくり返り、転びました。
このときです。ぬるでの木のかげから、おもしろい歌が聞こえてきました。

一度

「えいやら　えいやら　えいやらや。
一ぺん転べば　三年で、
十ぺん転べば　三十年、
百ぺん転べば　三百年。
こけて　転んで　ひざついて、
しりもちついて　でんぐり返り、
長生きするとは、こりゃ　めでたい。」
おじいさんは、すっかりうれしくなりました。

ころりん、ころ
りん、すってんころ
り、ぺったんころりん、
ひょいころ、ころりんと、
転びました。あんまりうれし
くなったので、しまいに、とう
げからふもとまで、ころころころ
りんと、転がり落ちてしまいました。
そして、けろけろけろっとした顔をして、
「もう、わしの病気はなおった。百年も、
二百年も、長生きができるわい。」
と、にこにこわらいました。

こうして、おじいさんは、すっかり元気になり、おばあさんと二人なかよく、幸せに、長生きしたということです。

ところで、三年とうげのぬるでの木のかげで、

「えいやら　えいやら　えいやらや。
一ぺん転べば　三年で、
十ぺん転べば　三十年、
百ぺん転べば　三百年。
こけて　転んで　ひざついて、
しりもちついて　でんぐり返り、
長生きするとは、こりゃ　めでたい。」

と歌ったのは、だれだったのでしょうね。

幸せ

李錦玉（リクムオギ）
一九二九～二〇一九年。大阪府生まれ。作家。「へらない稲たば」「おばけのトケビはわすれんぼう」などの作品がある。

この本、読もう

世界には、古くから語りつたえられてきた民話や昔話がたくさんあります。いろいろな国やちいきのお話を読んでみましょう。

世界のむかしばなし

いたずらおばけ

りこうな子ども　アジアの昔話

天の火をぬすんだウサギ

シンドバッドの冒険

くいしんぼうシマウマ

スリランカの昔話
ふしぎな銀の木

わたしがすきな「おおきなかぶ」は、ロシアの民話なんだって。

見通しをもとう

組み立てをとらえて、民話をしょうかいしよう

- 登場人物の行動や様子を表す言葉に気をつけましょう。
- 組み立てに着目して読み、登場人物の変化をとらえましょう。

●新た
○始まり

とらえよう

●次のないようが書かれている場面をたしかめ、「三年とうげ」の組み立てをとらえましょう。 1

①「三年とうげ」は、どんなところで、どんな人物が出てくるか。

②どんな出来事が起こったか。

③新たにどんな人物が登場し、どのように解決したか。

④その後、「おじいさん」はどうなったか。

ふかめよう

●お話のはじめと終わりでかわったのは、だれですか。その人物は、何によって、どうかわりましたか。

●「三年とうげ」を読んで、おもしろいと思ったところはどこですか。友だちと話しましょう。 2

- 出来事とその解決などの、物語の組み立て。
- 登場人物の行動や様子の表し方、また、その変化。
- 言葉の使い方や文の調子。

まとめよう

●自分が読んだ民話や昔話について、登場人物や出来事、おもしろかったところやその理由をノートに書きましょう。

ひろげよう

●民話や昔話のおもしろさが、友だちにつたわるようにしようかいしましょう。 3

1 民話や昔話の多くに当てはまる組み立て

①始まり（時、場所、登場人物などのしょうかい）
②出来事（事件）が起こる（登場人物がこまる、など）
③出来事（事件）が解決する
④むすび（その後、どうなったか）
※①と④の間で、②と③をくり返すこともある。

2 言葉

●行動や様子を表す言葉に気をつけましょう。

- おじいさんは真っ青になり、
- おいおいなきました。
- ふとんからはね起きると、

●声に出して読み、調子のよいところをさがしましょう。

3 しょうかいのれい

ぼくがしょうかいするお話は、「ほしになったりゅうのきば」です。これは、中国の民話です。

りゅうのけんかでやぶれてしまった天のさけめを、サンという人物がふさぎにいくお話です。

ぼくがいちばんおもしろいと思ったのは、サンが、大きな足音のするわらじや、山をゆらす手ぶくろなどを、どんどん手に入れていくところです。次は何が起こるのかなと、わくわくしてきます。

ぜひ読んでみてください。

題名と、どこの国のお話か

どんなお話か
- 登場人物
- 大きな出来事

おもしろいと思うところ
- 出来事
- 人物の変化
- 言葉や文

など

ふりかえろう

□知る　民話や昔話のおもしろさは、どんな言葉に表れていましたか。

□読む　民話や昔話は、どのような組み立てで書かれていましたか。

□つなぐ　これから物語を読むときには、何に着目しておもしろさを見つけたいですか。

たいせつ

組み立てをとらえる

●民話や昔話を読むときには、次のような組み立てをとらえながら読む。

① 始まり
② 出来事（事件）が起こる
③ 出来事（事件）が解決する
④ むすび

●組み立てをとらえると、登場人物の考えや、気持ちの変化がよく分かる。

いかそう

お話の組み立てをとらえると、お話のないようやおもしろさを、他の人につたえやすくなります。

息 ソク いき　美 ビ うつくしい　転 テン ころがる ころげる ころがす ころぶ　病 ビョウ やまい　医 イ　薬 ヤク くすり　飲 イン のむ　重 ジュウ チョウ おもい かさねる かさなる　配 ハイ くばる

155ページ

度 ド　幸 コウ さいわい しあわせ　始 シ はじめる はじまる

書く

組み立てにそって、物語を書こう

たから島のぼうけん

82ページに、たから島の地図があります。この地図には、たから物のある場所と、そこまでの道すじがえがかれ、とちゅうには、川や火山、動物などが待ち受けています。地図を見ながら、ぼうけんの様子をそうぞうしましょう。そして、組み立てに気をつけて、物語を書きましょう。

●たしかめよう

「三年上までの学びをたしかめよう」 6ページ

「三年とうげ」 78ページ

●学習の進め方

決めよう 集めよう
1 地図を見て、そうぞうする。

組み立てよう
2 組み立てと場面の様子を考える。

書こう
3 物語を書いて、読み返す。

つなげよう
4 友だちと読み合う。

●ふりかえろう

1 地図を見て、そうぞうしよう。

地図を見ながら、物語のないようをそうぞうしましょう。友だちと話しながら考えてもいいですね。

■物語のないようを考えるときには

- ぼうけんするのは、どんな人物か。
- どのようにして地図を手に入れたか。
- どの道をえらび、どんなものや動物と出会ったか。
- 登場人物は、どんな行動をしたか。
- どんなたから物を手に入れたか。
- 登場人物は、その後どうなったか。

たから島。
待ち受ける。

2 組み立てと場面の様子を考えよう。

多くの物語は、次のような組み立てで書かれています。1 でそうぞうしたことをもとに、組み立てを整理しましょう。

- 登場人物、時（きせつ・時間）、場所など
- 物語が始まるきっかけ

❶ 始まり
❷ 出来事（事件）が起こる
❸ 出来事（事件）が解決する
❹ むすび

- 出来事（事件）のけっか、どうなったか

※②と③は、くり返すことがある。

また、場面ごとに、まわりの様子、人物の気持ちや会話を考えましょう。読み手を引きつけたい場面は、とくにくわしく考えましょう。

■物語の組み立てのれい

❶ 始まり	❷ 出来事（事件）が起こる	❸ 出来事（事件）が解決する	❹ むすび
・そうまとゆなは、なかよし。 ・ある朝、道に地図が落ちていた。 ・たから島に出かける。	・そうまが、めずらしい鳥に見とれて、ワニのしっぽをふむ。 ・二人は、あわててにげるが、そうまが転んでしまう。	・ワニにかまれそうになるそうまに、ゆながつるをわたす。 ・そうまが、ワニの口につるをまく。 ・二人は、うまくにげだす。	・二人は、ぶじに家に帰る。 ・たから島のことは、だれにも言わない。

3 物語を書いて、読み返そう。

組み立てにそって物語を書きましょう。場面の様子や登場人物の行動、気持ちがつたわるよう、言葉をえらんで使いましょう。

「言葉のたから箱」 157ページ

物語を書いたら、分かりやすい表現になっているか、主語と述語は合っているか、文字にまちがいがないかなどを、たしかめましょう。

4 友だちと読み合おう。

友だちの物語を読んで、感想をつたえましょう。

- おもしろかったところ
- まねしたいところ

たから島のぼうけん

谷口　あかり

そうまとゆなは、小さいころからの友だちで、毎日いっしょに登校するほどなかよしです。

ある朝、いつものように二人が学校へ向かっていると、道に一まいの地図が落ちていました。

…

めずらしい鳥に見とれたそうまは、何かをふみました。なんとそれは、おそろしいワニのしっぽだったのです。

…

「このつるを使って。急いで。」

そうまは、ゆなにもらった草のつるで、ワニの口をぐるぐるとしばりました。二人は、とぶようににげました。

…

二人は、ぶじに島から家へ帰ることができました。でも、たから島のことはだれにも話しませんでした。

❶始まり　❷出来事（事件）が起こる　❸出来事（事件）が解決する　❹むすび

たいせつ

物語の組み立てを考えて書く

- 物語は、次のような組み立てで書く。
  ①始まり　②出来事（事件）が起こる　③出来事（事件）が解決する　④むすび
- 組み立てを整理するときは、場面の様子や登場人物のことをくわしく考える。

いかそう

身の回りで起きた出来事をつたえるときにも、話の組み立てや言葉の使い方をくふうしましょう。

ふりかえろう

□知る　場面の様子や登場人物の行動、気持ちをつたえるために、どんな言葉を使いましたか。

□書く　そうぞうしたことを、どのような組み立ての物語にしましたか。

□つなぐ　これから、物語を作るときには、どんなことに気をつけたいですか。

島　待　受

155ページ

きせつの言葉 4

冬のくらし

ゆき

川崎 洋

はつゆき　ふった
こなゆき　だった
くつの下で　きゅっきゅとないた

どかゆき　ふった
のしのし　ふって
ずんずん　つもり
ねゆきに　なった

べたゆき　ふって
ぼたゆき　ふって
ざらめゆきに　なって
もうすぐ　春だ

雪がっせん

◆寒い冬をあたたかくすごすためのくふうです。

◆冬は、土の中で育つやさいがおいしいといわれています。

生活の中で、冬らしさを感じることはありますか。身の回りで見つけた、冬を感じたものについて書きましょう。

わたしは、寒いきせつには、ゆたんぽを使っています。ねる前におゆを入れて、ふとんの中で使います。つめたい足を温めてくれるので、よくねむれます。

詩の楽しみ方を見つけよう

詩のくふうを楽しもう

何かがかくれている詩です。それぞれの行のさいしょの字を、つなげて読みましょう。

からはおもくて

和田 誠

からはおもくて
たくさんあるくと
つかれるけれど
むりしてたてた
りっぱなおうち

ことばはつなぐ

はせ みつこ

ことばはつなぐ
とおくとちかく
ばらとみつばち
だれかとだれか
いまとむかし
すきときらい
きみとわたし

声に出して読むと、楽しい詩です。

あした

石津 ちひろ

あしたのあたしは
あたらしいあたし
あたしらしいあたし

あたしのあしたは
あたらしいあした
あたしらしいあした

たいこ

谷川 俊太郎

どんどんどん
　どんどこどん
どこどんどん
　どどんこどん

どどどんどん
　どこどんどん
どどんこどん
　どこどこどん

どこどこどこどこ
　たいこたたいて
どんどんどんどん
　どこへいく

見て楽しむことのできる詩です。

なみ

内田 麟太郎

へへへへ

カンジーはかせの音訓かるた

カンジーはかせが、音訓かるた大会を開きました。かるたの読みふだには、漢字の音と訓を使った、リズムのよい歌が書かれています。

1 カンジーはかせが作った歌を、声に出して読みましょう。

- 千代紙で　千羽のつるを　おりました
- 曲がる球　投げる投手に　なりたいな
- 石炭は　もえるふしぎな　黒い石
- 運転を　終えたら車庫に　車入れ
- 羊毛が　ふわふわしてる　羊さん
- にらめっこ　勝負に勝ったうれしいな
- 旅先の　宿で宿題　はかどらず
- 昼食で　とうふ一丁　食べました

5　10

- ●千代紙　○曲がる　○投げる　●投手　石炭○　車庫○　羊毛○　○勝負　○宿

- 日記帳　三日ぼうずは　そつぎょうだ
- 宮大工　大きな寺院　しゅうりする
- 口笛を　ふくと遠くで　汽笛鳴り
- 助言への　お礼の言葉　ていねいに

2 カンジーはかせのように、漢字の音と訓を両方使った、リズムのよい歌を作りましょう。

「これまでに習った漢字」 148ページ

「この本で習う漢字」 153ページ

5

作り方

① どの漢字を使うかを決める。

② 漢字の読み方一つ一つについて、その読み方を使った言葉を集める。

③ 音読みを使った言葉と、訓読みを使った言葉を一つずつ使って、ひとつながりの文を考える。

④ リズムを整えて、かんせい。

5

- ●昼食　○一丁　日記帳○　○宮大工　●寺院　口笛○　○お礼

代（ダイ・タイ）　曲（キョク）　投（トウ）　炭（タン）　庫（コ）　羊（ヨウ）　勝（ショウ）　宿（シュク）　丁（チョウ）

帳（チョウ）　宮（キュウ）　院（イン）　笛（テキ）　礼（レイ）

かわる　かえる　まがる　まげる　なげる　やど　やどる　やどす

155ページ

漢字の広場
2年生で習った漢字
6

絵の中の人になりきって、それぞれのきせつでどんなことをしたかを書きましょう。修飾語を使って、まわりの様子もくわしく表しましょう。

〈れい〉 わたしは、春に、友だちと野原へピクニックに出かけました。空は、すっきりと晴れ、あたたかな風がふいていました。

4 ありの行列

読む

読んで感想をもち、つたえ合おう

ありが行列を作る様子を、見たことはありますか。ありの行列についての研究が書かれた文章を読みましょう。どんなことが書かれているでしょうか。

これまでの学習

- 段落とその中心をとらえる（言葉で遊ぼう・こまを楽しむ）……上58ページ
- 話題と、れいの書かれ方をとらえる（すがたをかえる大豆）……49ページ

ありの行列

大滝 哲也
安田 尚樹
絵 文

夏になると、庭や公園のすみなどで、ありの行列を見かけることがあります。その行列は、ありの巣から、えさのある所まで、ずっとつづいています。ありは、ものがよく見えませんのに、それなのに、なぜ、ありの行列ができるのでしょうか。

アメリカに、ウイルソンという学者がいます。この人は、次のような実験をして、ありの様子を研究しました。

○庭　○研究

をかんさつしました。

はじめに、ありの巣から少しはなれた所にあしを置きました。すると、巣の中から、たくさんのはたらきありが、次々と出てきました。そして、列を作って、さとうの所まで行きました。ふしぎなことに、その行列は、はじめのありが巣に帰るときに通った道すじから、外れていないのです。

ひとつまみのさとうをおきました。しばらくすると一ぴきのありが、そのさとうを見つけました。これは、えさをさがすために、外に出てはたらきありです。ありは、やがて、巣へ帰っていきました。

●外れる

次に、この道すじに大きな石をおいて、ありの行く手をさえぎってみました。すると、ありの行列は、石の所でみだれて、ちりぢりになってしまいました。ようやく、一ぴきのありが、石の向こうがわに道のつづきを見つけました。そして、さとうに向かって進んでいきました。そのうちに、他のありたちも、一ぴき二ひきと道を見つけて歩きだしました。まただんだんに、ありの行列ができていきました。目的地に着くと、ありは、さとうのつぶを持って、巣に帰っていきました。帰るときも、行列の道すじはかわりません。ありの行列は、さとうのかたまりがなくなるまでつづきました。

これらのかんさつから、ウイルソンは、はたらきありが、地面に何か道しるべになるものをつけておいたのではないか、と考えました。

そこで、ウイルソンは、はたらきありの体の仕組みを、細かに研究してみました。すると、ありは、おしりのところから、とくべつのえきを出すことが分かりました。それは、においのある、じょうはつしやすいえきです。

この研究から、ウイルソンは、ありの行列のできるわけを知ることができました。

はたらきありは、えさを見つけると、道しる

●行く手

●細かい

べとして、地面にこのえきをつけながら帰るのです。他のはたらきありたちは、そのにおいをかいで、においにそって歩いていきます。そして、そのはたらきありたちも、えさを持って帰るときに、同じように、えきを地面につけながら歩くのです。そのため、えさが多いほど、においが強くなります。

このように、においをたどって、えさの所へ行ったり、巣に帰ったりするので、ありの行列ができるというわけです。

大滝 哲也

一九二六～二〇一一年。東京都生まれ。動物学者。とくに、昆虫について研究していた。

もっと読もう

文章を読んで、もっと知りたいことが出てきたときは、他のしりょうを読むと明らかになることがあります。ここでは、「ありの行列」にかかわる、二つの文章を読んでみましょう。あなたの知りたいことは書かれていますか。

●においのある、とくべつのえきを出すのは、えさを持って帰るときだけか。

ありは、道しるべになる、においのあるえきだけでなく、他にもいくつかの、においのあるえきを出して、なかまとつたえ合っています。

たとえば、てきなどのきけんが近づいていることを知らせるときに出すものや、なかまを集めるために出すものなどがあります。

●ちがう巣にすむ、同じしゅるいのありの行列が交わると、ありはまよわないのか。

同じしゅるいのありは、道しるべとなるえきのにおいも同じです。しかし、道しるべのそばには、同じ巣のなかまがつけたえきだと分かる、べつのにおいものこっています。そのにおいによって、なかまがのこした道しるべをたどることができます。ただ、ときにはまちがってしまうこともあるようです。

（山岡 亮平 かんしゅう）

●交わる

山岡 亮平

一九四七年、京都府生まれ。応用昆虫学者。

見通しをもとう

読んで感想をもち、つたえ合おう

- 事がらや、せつめいのつながりを表す言葉に気をつけましょう。
- 読んだ感想を友だちとつたえ合い、自分と同じところやちがうところを見つけましょう。

とらえよう

●「ありの行列」は、「はじめ」「中」「終わり」の組み立てで書かれた文章です。

- 文章全体の「問い」をたしかめましょう。 1
- それに対する「答え」の部分を見つけましょう。どの言葉や文で、それが分かりますか。
- 「中」を、段落どうしのつながりに気をつけて読み、ウイルソンの研究をたしかめましょう。 2

ふかめよう

●次の点から、「ありの行列」に書かれていることを短くまとめましょう。

- ウイルソンは、どのように研究を進めたのか。
- ありが行列を作る仕組み。 3

●「ありの行列」には、「――ました。」で終わる文と、「――です。」「――ます。」で終わる文があります。どのように使い分けていると思いますか。

まとめよう

●「ありの行列」と、「もっと読もう」（101ページ）を読んで、引きつけられたことや、もっと知りたいと思ったこと、考えたことを文章に書きましょう。 4

ひろげよう

●書いた文章を、友だちと読み合いましょう。そして、自分と同じところやちがうところを見つけて、つたえ合いましょう。

ふりかえろう

□ 知る　段落と段落のつながりを考えるとき、どの言葉に着目しましたか。

□ 読む　友だちの感想を読んで、どんな新しい見方や考え方に出会いましたか。

□ つなぐ　同じ話題や事がらに関係する文章をいくつか読むことのよさは、何だと思いましたか。

---

1 「問い」の見つけ方

- 文の始まりや終わりの書かれ方に目を向け、「問い」の書かれた文を見つける。

2 つながりを考えるとき

次の言葉に気をつけて読みましょう。

- こそあど言葉
- 段落のはじめの言葉

3 短くまとめるために

「ウイルソンの研究の進め方」が書かれた段落や、「ありが行列を作る仕組み」が書かれた段落をさがして、大事な言葉や文を見つけましょう。

4 感想のれい

わたしは、「ありの行列」を読んで、ありがとくべつなえきを出すことに引きつけられました。ありたちが、えきのにおいをかいで歩くことで、行列ができるのだそうです。

わたしは、もし行列が、他の巣のありのものと重なったらどうなるんだろうと、ぎもんに思いました。すると、「もっと読もう」に、同じ巣のなかまだと分かるにおいがあると書かれていました。

今度、もっとくわしく調べてみたいと思います。

たいせつ せつめいする文章を読んで、感想をつたえ合う

- せつめいする文章を読むときには、次のことを見つけながら読むとよい。
  - はじめて知っておどろいたこと
  - もっと知りたいと思ったこと
- 読んだ感想をつたえ合うときには、自分の考えと同じところやちがうところに着目して聞く。

いかそう

感想を聞くときは、自分の考えとくらべながら聞きましょう。

この本、読もう

科学読み物を読むと、虫や植物など、さまざまなもののふしぎを知ることができます。

なぜ？どうして？科学のお話3年生
生き物やうちゅう、食べ物などのふしぎがつまっている本です。

まちぼうけの生態学
筆者は、見事なかりをするアカオニグモのくらす草むらに出かけて、行動や様子をかんさつしました。

むしこぶ　みつけた
木のえだについた実のようなもの。葉のうらの風船みたいなもの。中には、何が入っているのでしょう。

研究庭

言葉

言葉について考えよう

つたわる言葉で表そう

自分がたいけんしたことや、そのときに感じたことをつたえるとき、「すごかった」「おもしろかった」だけでは、何がどうすごかったのか、おもしろかったのかが相手につたわりません。

ここでは、つたえたいことを言葉で表すことについて、考えてみましょう。

くわしく思いえがく

田中さんが、運動会の感想を書きました。①と②では、どちらのほうが、田中さんの気持ちが分かりますか。それは、どうしてでしょう。

156ページ

① 運動会は、がんばれたからよかった。

② リレーで走っているとき、友だちのおうえんする声が聞こえてきた。苦しかったけれど、さいごまで全力で走り、一等になれてよかった。

①は、何をどうがんばって、どうよかったのかがよく分かりません。いっぽう、②は、田中さんがどんな様子や気持ちだったのかをそうぞうできます。つまり、つたえたいことを、相手が思いえがけるように書くと、つたわるのです。

そのためには、いちばんつたえたい場面について、くわしく思い出すことが大切です。「だれが」「いつ」「どこで」「だれ（何）と」「どうして」「どのように」を考えるとよいでしょう。これらを全て入れるひつようはありません。このような見方をきっかけにして、つたえようとすることをくわしく思い出して、言葉で表すようにしましょう。

言葉をえらぶ

話したり、文章を書いたりするときは、自分の気持ちや表したい様子に合う言葉をえらびましょう。

使える言葉が多いと、よりぴったり合う言葉をえらべるようになります。言葉をふやすきっかけはいろいろとあります。新しい言葉を知ったら、使ってみましょう。

「言葉のたから箱」 157ページ

友だちの文章を手がかりに

辞典や本などで調べていて

物語を読んでいて

- 全力
- 一等
- 湖

何かを言葉で表すとき、自分の気持ちや表したい様子にぴったり合う言葉を使えるようになると、相手によりよくつたわります。「言葉をえらぶ」ということは、自分にとっても相手にとっても大切なことなのです。

相手につたわる文章を書こう

冬休みの出来事とそのときの気持ちを、二百字で書きましょう。

① 読む人が、様子や気持ちを思いえがけるように、文章を書く。

② 書き終わったら、ないようがつたわるような題名を考える。

③ 友だちと読み合って、よくつたわる部分とそうでない部分を教えてもらう。友だちの文章を読むときには、どんな言葉で表しているのかに注意する。

注意

156ページ

等 湖 注

書く

しょうかいして、感想をつたえ合おう

これがわたしのお気に入り

一年間、さまざまな学習をしてきました。国語や図画工作などで作った作品も、たくさんありますね。がんばった作品やお気に入りの作品の中から一つをえらび、理由とともにしょうかいする文章を書きましょう。

たしかめよう

「三年上までの学びをたしかめよう」6ページ

学習の進め方

決めよう集めよう ◀ 組み立てよう ◀ 書こう ◀ つなげよう

1. 作品をえらび、くわしく書き出す。
2. 組み立てをたしかめる。
3. しょうかいする文章を書く。
4. 感想をつたえ合う。

ふりかえろう

1 作品をえらび、くわしく書き出そう。

一年間で、どんな作品を作りましたか。友だちとふり返ってみましょう。

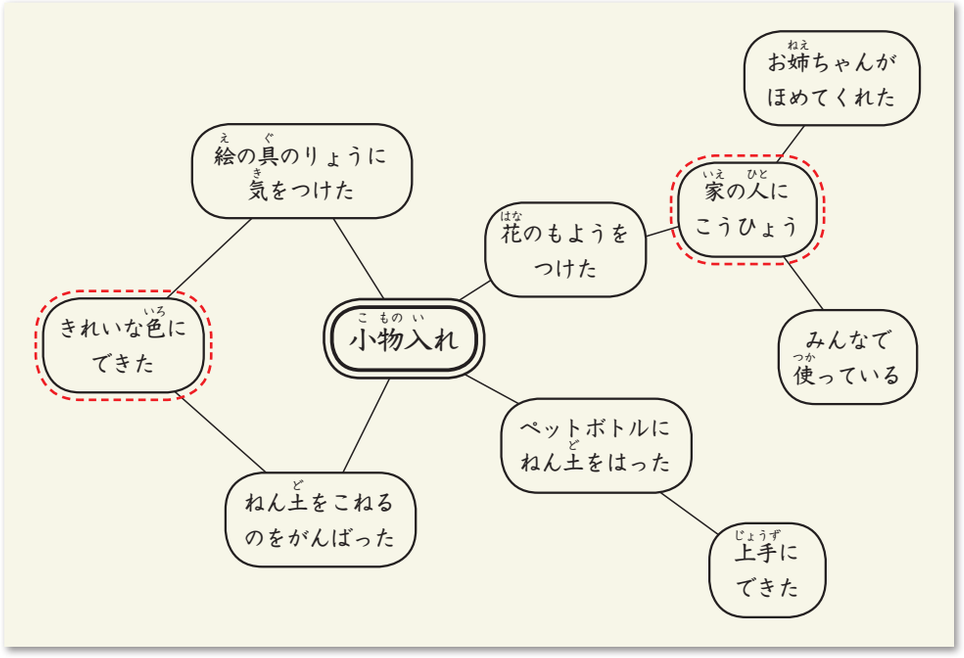
しょうかいしたい作品をえらんだら、その作品について、くわしく書き出します。

- くふうしたところ、がんばったところ
- 自分やまわりの人の感想

書き出したら友だちに見せ、もっと知りたいところや、きょうみのある部分をきいてみましょう。

5

■高山さんが書き出したれい



2 組み立てをたしかめよう。

112ページのような組み立てで、しょうかいする文章を書きます。

組み立てにそって、書きたいことをメモしておきましょう。

5

3 しょうかいする文章を書こう。

作品のせつめいとしょうかいしたい理由が、読む人に分かりやすいように、段落の分け方やせつめいのしかたを考えて書きましょう。

写真や絵を入れる場合は、どこにおけば分かりやすいかも考えましょう。

10

■高山さんの組み立てメモ

えらんだ作品

図工で作った小物入れ

作品のせつめい

- ざいりょう　ペットボトル、ねん土、絵の具
- 作り方
- えんぴつを入れる。

しょうかいしたい理由

① きれいな色にできた。
- 絵の具を少しずつふやした。
- よくこねた。

② 家の人にも大こうひょうだった。
- お姉ちゃんの言葉。
- 電話の近くにおいて、みんなで使っている。

15　10　5

◆お姉ちゃん

■しょうかいする文章のれい

花もようが大こうひょう

高山　みお

写真や絵

題名

えらんだ作品

作品のせつめい

しょうかいしたい理由

わたしのお気に入りの作品は，図工の時間に作った小物入れです。

絵の具をまぜたねん土を，ペットボトルにはって作りました。細長いので，えんぴつやペンを入れるのに使えます。

この作品をしょうかいしたい理由は，二つあります。

一つは，ねん土をきれいな色にできたことです。ねん土にまぜる絵の具が少ないと，色がうすくなります。反対に，多すぎるとこくなってしまいます。少しずつ絵の具をふやして，自分の思ったとおりの色にしました。それから，全体が同じ色になるまで，ねん土をよくこねました。

もう一つは，家の人にも大こうひょうだったことです。持って帰ると，お姉ちゃんが，「花のもようがかわいいね。」と言ってくれました。えんぴつやペンを入れて電話の近くにおいたら，みんなが使ってくれています。

○反対

4 感想をつたえ合おう。

書き終わったら、しょうかいする文章を読み合いましょう。文章のよいところや、分かりやすいところを、つたえ合いましょう。

■書き方について

■ないようについて

たいせつ　感想をつたえ合う

- ないようや書き方について、どう思ったのかをくわしくつたえる。
- 自分の文章に対する感想を知ると、ないようや書き方のよいところがよく分かる。

いかそう

自分や友だちの文章から見つけたよいところを、次に書くときにいかしましょう。

ふりかえろう

- □ 知る　どんなことを理由にして、しょうかいしたい作品をえらびましたか。
- □ 書く　友だちの感想から気づいた、自分の文章のよいところはどこですか。
- □ つなぐ　文章について感想をつたえ合うときには、どんなことに気をつけたいですか。

反 ハン そる そらす

156ページ

言葉 コンピュータのローマ字入力

1 キーボードを使って，コンピュータに文字や記号を入れることを，「入力」といいます。 A M E とキーを打つと，コンピュータの画面に，平がなで「あめ」と出ます。

①「し」「ち」「ふ」など，ローマ字での書き方が二つあるものは，どちらの打ち方でも入力することができます。

「S I」「S H I」→し　「T I」「C H I」→ち

「H U」「F U」→ふ　「S Y A」「S H A」→しゃ

「T Y A」「C H A」→ちゃ

②「ぢ」「づ」「を」「ん」などは，ふつう，次のように打ちます。

「D I」→ぢ　「D U」→づ

「W O」→を　「N N」→ん

③のばす音は，平がなで書かれたとおりに打ちます。上巻で学習したローマ字の書き表し方とはちがうので，注意しましょう。

「K U U K I」→くうき（書き表し方「kûki」）

④「きっぷ」などの「っ」（つまる音）は，「っ」の次の音のはじめの文字を重ねて，打ちます。

「K I P P U」→きっぷ

▶次の言葉を，コンピュータに入力してみましょう。

- ちらし　• しゃかい　• はなぢ
- ほんをかう　• こうつう　• にっき

2 コンピュータでは，入力した文字を，漢字やかたかなにして表すこともできます。このことを，「へんかん」といいます。

①へんかんするとき，同じ音の言葉がいくつか出てくることがあります。たとえば，「きしゃ」をへんかんしようとすると，「記者」「帰社」「汽車」などが出てきます。その中から，使いたいものをえらびます。

②のばす音があるかたかなの言葉は，

ー を打ち，へんかんします。

「N O ー T O」→ノート

▶次の言葉をコンピュータに入力して，へんかんしてみましょう。

- クラス　• ソース　• ジュース
- 電波　• 勉強　• 放送

コンピュータによっては，ちがう打ち方で入力するものがあります。たしかめて使いましょう。

○打つ　●帰社　電波○　○勉強　○放送

打　波　勉　放

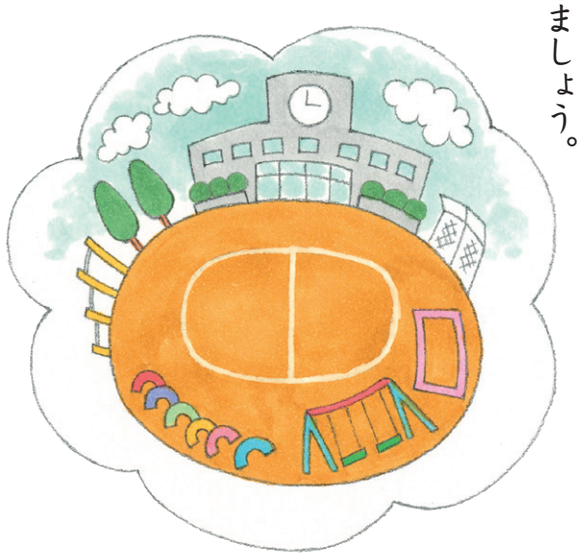
156ページ

話す・聞く

つたえたいことを、理由をあげて話そう

わたしたちの学校じまん

あなたの学校のじまんしたいことは何ですか。グループで一つえらんで、発表しましょう。どのように理由を話せば、じまんしたいものよさが相手につたわるかを考えて、組み立てや話し方をくふうしましょう。



●たしかめよう

「三年上までの学びをたしかめよう」5ページ

●学習の進め方

決めよう 集めよう

1 じまんしたいことを決める。

2 理由を考えて、しりょうを集める。

じゅんびしよう

3 組み立てを考え、発表げんこうを作る。

話そう 聞こう

4 練習をして、発表会を開く。

つなげよう

5 発表会の感想をつたえ合う。

●ふりかえろう

1 じまんしたいことを決めよう。

学校のじまんしたいことを、グループで一つ決めましょう。発表する相手や目的などをたしかめて、それに合ったものをえらびます。

2 理由を考えて、しりょうを集めよう。

グループで、じまんしたい理由を出し合いましょう。相手につたわりやすいかどうかを話し合って、発表するものをえらびます。

理由が決まったら、発表で見せるしりょうを集めましょう。じまんしたいことと、その理由をよりよくつたえるために、じゅんびしましょう。

■発表する相手や目的などのれい

- 発表する場…学習発表会
- 発表すること…学校のじまん
- 相手…ちいきの方、家の人
- 目的…わたしたちの学校のよいところを知ってもらうため
- 時間…一グループ三分
- 場所…教室

3 組み立てを考え、発表げんこうを作ろう。

119ページのれいをさんこうに組み立てを考え、ぶんたんして発表げんこうを作りましょう。聞き手の立場になって、つたえ方を決めましょう。

つたえたいことが、はっきり分かるかな。

じまんしたいことの理由になっているかな。

見せるしりょうは、写真・絵・図のどれにしよう。

4 練習をして、発表会を開こう。

会場の広さや聞き手、発表のないように合わせて、声の強弱や速さ、調子、間の取り方、言葉づかいをくふうしましょう。練習する中で気づいたことは、発表げんこうに書きくわえたり、書きかえたりしましょう。

■発表げんこうのれい

「にこにこ広場」は、体育そうこの横にある広場です。毎日たくさんの人が遊ぶ、――

←大きな声で、はっきりと

――「にこにこ広場」の毎日のそうじは、三年生の仕事です。夏には、みんなで草

（正門の近く）

（この写真を見てください。（間を取る））

（わたしたち）

• 速さ
• 正門

■話し方のくふうのれい

• いちばんつたえたいところは、強く言う。
• 相手の様子を見て、分かりにくい言葉は、せつめいしたり、言いかえたりする。
• しりょうを見る時間を取ったり、とくに見てもらいたいところを指さしたりする。

■発表のれい

全員

わたしたちがじまんしたいのは、「にこにこ広場」です。

←ふだんの広場の写真

上田

「にこにこ広場」は、正門の近くにある広場です。

毎日たくさんの人が遊ぶ、学校でいちばん人気のある場所です。わたしたちが「にこにこ広場」をじまんしたい理由は、二つあります。

←大きな声で、はっきりと

一つ目は、気持ちのよさです。しばふが植えられているので、夏はすずしく、冬はあたたかく感じます。また、しばふのおかげで転んでもいたくないので、思いっきり遊べます。そして、まわりに木や花があるので、きせつを感じることができます。

←大きな声で、はっきりと ←一つ一つゆっくり ←明るい声で ←ゆっくり話す

高山

二つ目は、そうじや手入れがされていることです。「にこにこ広場」の毎日のそうじは、わたしたち三年生の仕事です。この写真を見てください。夏には、みんなで草取りをするなど、しばふの手入れもてつだいます。ちいきのみなさんにも、きれいな広場を見てもらいたいです。

←大きな声で、はっきりと ←草取りの写真 ←間を取る ←ゆっくり話す

森川

このように、「にこにこ広場」はわたしたちのじまんです。これからも、いつも気持ちがよく、みんながえがおになれる場所にしていきたいです。そのために、しばふや草花などを大切にし、そうじをがんばりたいと思います。

←大きな声で、はっきりと ←ゆっくり話す ←一つ一つゆっくり

谷口

はじめ
〈自分たちの考え〉
• じまんしたいもの
• そのせつめい

中
〈理由〉
• じまんしたい理由

終わり
〈自分たちの考え・まとめ〉
• じまんしたいものをくり返す
• まとめ

5 発表会の感想をつたえ合おう。

発表会をふり返り、よかったところをつたえましょう。

■組み立てについて

じまんしたいものを、はじめにはっきり話していたので、話の中心が分かりやすかったです。

■話し方について

ちいきの方でも広場の様子が思いうかぶよう、ゆっくり話していました。

たいせつ

相手や目的を考え、理由をあげて話す

〈話し方〉

- 聞き手を見て、様子をたしかめる。
- 声の調子や強弱などをくふうする。

〈組み立て〉

- つたえたいことに合う理由やしりょうをえらぶ。

いかそう

何かをせつめいするときには、つたえたいことに合う理由を考えて話しましょう。

ふりかえろう

- □ 知る　聞き手や目的、ないように合わせて、どんな話し方のくふうをしましたか。
- □ 話す・聞く　分かりやすくせつめいするために、どのような組み立てを考えましたか。
- □ つなぐ　何かをせつめいするときに、友だちのどんなくふうをまねしたいですか。

速　ソク　はやい　はやめる　はやまる

156ページ

5 モチモチの木

読む

登場人物について、話し合おう

「モチモチの木」とは、どんな木なのでしょう。この物語には、「豆太」という男の子が出てきます。「豆太」は、どんな人物でしょうか。

これまでの学習

- 登場人物のへんかに気をつけて読む（まいごのかぎ）……上84ページ
- 物語に対する感想をもつ（ちいちゃんのかげおくり）……28ページ

モチモチの木

おくびょう豆太

斎藤 隆介 作
滝平 二郎 絵

全く、豆太ほどおくびょうなやつはない。もう五つにもなったんだから、夜中に、一人でせっちんぐらいに行けたっていい。

ところが、豆太は、せっちんは表にあるし、表には大きなモチモチの木がつっ立っていて、空いっぱいのかみの毛をバサバサとふるって、両手を「わあっ。」とあげるからって、夜中には、じさまについてもらわないと、一人じゃしょうべんもできないのだ。

じさまは、ぐっすりねむっている真夜中に、豆太が「じさまぁ。」って、どんな小さい声で言っても、「しょんべんか。」と、すぐ目をさましてくれる。いっしょ

せっちん
べんじょのこと。

にねている一まいしかないふとんを、ぬらされちまうよりいいからなぁ。

それに、とうげのりょうし小屋に、自分とたった二人でくらしている豆太が、かわいそうで、かわいかったからだろう。

けれど、豆太のおとうだって、くまと組みうちして、頭をぶっさかれて死んだほどのきもすけだったし、じさまだって、六十四の今、まだ青じしを追っかけて、きもをひやすような岩から岩へのとびうつりだって、見事にやってのける。

それなのに、どうして豆太だけが、こんなにおくびょうなんだろうか——。

きもすけ
どきょうのある人のこと。

青じし
かもしかのこと。

やい、木ぃ

モチモチの木ってのはな、豆太がつけた名前だ。
小屋のすぐ前に立っている、でっかいでっかい木だ。
秋になると、茶色いぴかぴか光った実を、いっぱいふり落としてくれる。その実を、じさまが、木うすでついて、石うすでひいてこなにする。こなにしたやつをもちにこね上げて、ふかして食べると、ほっぺたが落っこちるほどうまいんだ。
「やい、木ぃ、モチモチの木ぃ、実ぃ落とせぇ。」
なんて、昼間は木の下に立って、かた足で足ぶみして、いばってさいそくしたりするくせに、夜になると、豆太はもうだめなんだ。
木がおこって、両手で、「お化けぇ。」って、上からおどかすんだ。夜のモチモチの木は、そっちを見ただけで、もう、しょんべんなんか出なくなっちまう。
じさまが、しゃがんだひざの中に豆太をかかえて、
「ああ、いい夜だ。星に手がとどきそうだ。おく山じゃぁ、しかやくまめらが、鼻ぢょうちん出して、ねっこけてやがるべ。それ、シイーッ。」
って言ってくれなきゃ、とっても出やしない。しないでねると、あしたの朝、とこの中がこうずいになっちまうもんだから、じさまは、かならずそうしてくれるんだ。五つになって「シー」なんて、みっともないやなぁ。
でも、豆太は、そうしなくっちゃだめなんだ。

霜月二十日のばん

そのモチモチの木に、今夜は、灯がともるばんなんだそうだ。じさまが言った。

「霜月の二十日のうしみつにゃあ、モチモチの木に灯がともる。起きてて見てみろ。そりゃあ、きれいだ。おらも、子どものころに見たことがある。死んだおまえのおとうも見たそうだ。山の神様のお祭りなんだ。それは、一人の子どもしか、見ることはできねえ。それも、勇気のある子どもだけだ。」

「――それじゃあ、おらは、とってもだめだ――。」

豆太は、ちっちゃい声で、なきそうに言った。だって、じさまもおとうも見たんなら、自分も見たかったけど、こんな冬の真夜中に、モチモチの木を、それも、たった一人で見に出るなんて、とんでもねえ話だ。ぶるぶるだ。

木のえだえだの細かいところにまで、みんな灯がともって、木が明るくぼうっとかがやいて、まるでそれは、ゆめみてえにきれいなんだそうだが、そして、豆太は、「昼間だったら、見てえなぁ――」。と、そっと思ったんだが、ぶるぶる、夜

霜月
十一月の古いよび名。

うしみつ
真夜中のこと。「うしみつ時」ともいう。

神様
。

◆二十日

なんて考えただけでも、おしっこをもらしちまいそうだ――。

豆太は、はじめっからあきらめて、ふとんにもぐりこむと、じさまのたばこくさいむねん中に鼻をおしつけて、よいの口からねてしまった。

豆太は見た

豆太は、真夜中に、ひょっと目をさました。頭の上で、くまのうなり声が聞こえたからだ。

「じさまぁっ。」

むちゅうでじさまにしがみつこうとしたが、じさまはいない。

「ま、豆太、心配すんな。じさまは、じさまは、ちょっとはらがいてえだけだ。」

まくら元で、くまみたいに体を丸めてうなっていたのは、じさまだった。

よいの口
日がくれてから、まだあまり時間がたたないころ。

「じさまっ。」

こわくて、びっくらして、豆太はじさまにとびついた。けれども、じさまは、ころりとたたみに転げると、歯を食いしばって、ますますすごくうなるだけだ。

「医者様をよばなくっちゃ。」

豆太は、小犬みたいに体を丸めて、表戸を体でふっとばして走りだした。

ねまきのまんま。はだしで。半道もあるふもとの村まで——。

外はすごい星で、月も出ていた。

とうげの下りの坂道は、一面の

真っ白い霜で、雪みたいだった。霜が足にかみついた。足からは血が出た。豆太は、なきなき走った。いたくて、寒くて、こわかったからなぁ。

でも、大すきなじさまの死んじまうほうが、もっとこわかったから、なきなきふもとの医者様へ走った。

これも、年よりじさまの医者様は、豆太からわけを聞くと、

「おう、おう——。」

と言って、ねんねこばんてんに薬箱と豆太をおぶうと、真夜中のとうげ道を、えっちら、おっちら、じさまの小屋へ上ってきた。

半道
やく二キロメートル。

ねんねこばんてん
赤ちゃんをせおうときに、赤ちゃんをつつむように着る、わた入りのはんてん。

薬箱

とちゅうで、月が出てるのに、雪がふり始めた。この冬はじめての雪だ。豆太は、そいつをねんねこの中から見た。

そして、医者様のこしを、足でドンドンけとばした。じさまが、なんだか死んじまいそうな気がしたからな。

豆太は、小屋へ入るとき、もう一つふしぎなものを見た。

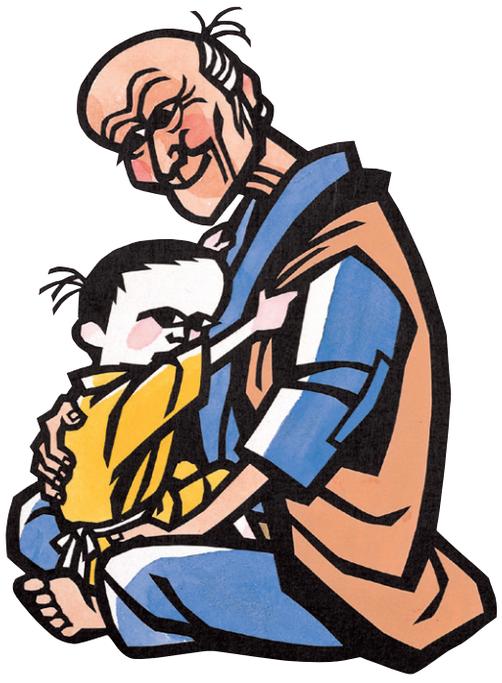
「モチモチの木に、灯がついている。」

5

けれど、医者様は、
「あ、ほんとだ。まるで、灯がついたようだ。だども、あれは、とちの木の後ろにちょうど月が出てきて、えだの間に星が光ってるんだ。そこに雪がふってるから、明かりがついたように見えるんだべ。」
と言って、小屋の中へ入ってしまった。だから、豆太は、その後は知らない。医者様のてつだいをして、かまどに まきをくべたり、湯をわかしたりなんだり、いそがしかったからな。

弱虫でも、やさしけりゃ

でも、次の朝、はらいたがなおって元気になったじさまは、医者様の帰った後で、こう言った。
「おまえは、山の神様の祭りを見たんだ。モチモチの木には、灯がついたんだ。おまえは、一人で、夜道を医者様よびに行けるほど、勇気のある子どもだったんだからな。自分で自分を弱虫だなんて思うな。人間、やさしささえあれば、やらなきゃならねえことは、きっとやるもんだ。それを見て、他人がびっくらするわけよ。は、は、は。」
——それでも、豆太は、じさまが元気になると、そのばんから、
「じさまぁ。」
と、しょんべんにじさまを起こしたとさ。



斎藤 隆介
一九一七〜八五年。東京都生まれ。作家。「ベロ出しチョンマ」「ユとムとヒ」などの作品がある。

●明かり
○湯

見通しをもとう

登場人物について、話し合おう

- せいかくを表す言葉や、気持ちを表す言葉に気をつけましょう。
- 「豆太」について考えたことを友だちとつたえ合い、考えを深めましょう。

語り手　物語の地の文を語る人。

160ページ

とらえよう

- 「豆太」と「じさま」はどんな人物でしょう。
  - 語り手から見た「豆太」。
  - 「じさま」から見た「豆太」と、「豆太」をそのように見る「じさま」。

ふかめよう

- それぞれの場面での、「豆太」と「じさま」の行動や会話、様子をたしかめましょう。 1
- 「霜月二十日のばん」の場面の「豆太」と、「豆太は見た」の場面の「豆太」をくらべてみましょう。どんなところがちがいますか。

5

1 ノートのれい

登場人物の行動や会話、様子		
場面	豆太	真夜中に、「じさまあ。」と小さい声で言う。
	じさま	「しょんべんか。」と、すぐ目をさましてくれる。
豆太のくびょう		

2 話し合いのれい

話し合うときには、次のようなこともつたえましょう。

- 「豆太」についての考えは、文章のどこから生まれているか。
- 自分のけいけんとくらべて考えたことは何か。

5

まとめよう

- 「豆太」は、どうしてモチモチの木の灯を見ることができたのでしょうか。次のことをたしかめ、考えとその理由をノートに書きましょう。
  - 「医者様」の言ったこと（132ページ2行目）
  - 「じさま」の言ったこと（132ページ11行目）

ひろげよう

- 「豆太」について、友だちと話し合いましょう。 2 友だちの考えと自分の考えをくらべましょう。
  - 「豆太」はどんな人物か。
  - 「豆太」はかわったか。

ふりかえろう

- □ 知る　どのような言葉から、「豆太」と「じさま」のせいかくや気持ちをとらえましたか。
- □ 読む　友だちと話し合って、登場人物への見方はどうかわったり、深まったりしましたか。
- □ つなぐ　物語を読むときには、人物のどのようなところに気をつけて読みたいですか。

たいせつ

登場人物のせいかくをとらえる

- 登場人物のせいかくは、次のようなことからとらえられる。
  - その人物の会話や行動。
  - 語り手や他の登場人物が、その人物について語る言葉。
- 他の人と見方を交流することで、人物に対する考えが深められる。

いかそう

物語を読んだら、友だちと交流して、登場人物や物語についての考えを深めましょう。

この本、読もう

斎藤隆介さんの本です。どんな人物が出てくるでしょうか。

ソメコとオニ
ソメコは五さいの女の子。オニにさらわれても平気で、ずっと遊びにさそいます。つかれたオニは――。

花さき山
山で道にまよったあやは、一面にさく美しい花にびっくり。山ンばがそのひみつを教えてくれました。

半日村
山が日をさえぎり、半日しか日の当たらない半日村。村に住む一平は、山の土をけずって運び始めます。

神箱湯

156ページ

ふろく 学習を広げよう

「たいせつ」のまとめ……138
インタビュー　知りたいことをきく……142
本の世界を広げよう……144
知ると楽しい「故事成語」……146
これまでに習った漢字……148
この本で習う漢字……153
言葉のたから箱……157

たいせつ

「たいせつ」のまとめ

三年生で学習する、大切なことをまとめています。

- たしかめたり、他の学習で使ったりしましょう。
- できるようになったことを、どんな場面でいかしたいですか。

くらんに書きましょう。

話す・聞く

学習の進め方

つなげる ◀ 話す・聞く ◀ じゅんびする ◀ 決める 集める

三年上

話を聞いて、しつもんする

- 知りたいことについて、どのようにしつもんするとよいかを考える。　など

進行を考えながら話し合う

- 次のことを考えながら話し合うと、話し合いが進みやすくなる。
  - 話し合いの目的や進め方と、自分の役わり。 39ページ
  - どうやって決めるのか。
  - 友だちの考えと同じところ、ちがうところ。　など

相手や目的を考え、理由をあげて話す

〈話し方〉

- 聞き手を見て、様子をたしかめる。
- 声の調子や強弱などをくふうする。 120ページ

〈組み立て〉

- つたえたいことに合う理由やしりょうをえらぶ。

こんな場面でいかそう

書く

学習の進め方

つなげる ◀ 書く ◀ 組み立てる ◀ 決める 集める

三年上

あんないの手紙を書く

- 相手が来るためにひつようなことを考える。　など

組み立てを考えて、ほうこくする文章を書く

- つたえたいことを、ないようのまとまりに分ける。
- 分かったことと考えたことをくべつして書く。　など 55ページ

れいをあげて書く

- ないようのまとまりごとに、段落を分ける。
- つたえたいことに合ったれいをあげる。
- れいをあげるじゅんじょや、絵や写真のしめし方をくふうする。 85ページ

物語の組み立てを考えて書く

- 物語は、次のような組み立てで書く。
  ① 始まり　② 出来事（事件）が起こる
  ③ 出来事（事件）が解決する　④ むすび　など

感想をつたえ合う

- ないようや書き方について、どう思ったのかをくわしくつたえる。 113ページ
- 自分の文章に対する感想を知ると、ないようや書き方のよいところがよく分かる。

こんな場面でいかそう

せつめいする文章

三年上

段落とその中心をとらえる

- 一つの段落には、それぞれ、ひとまとまりのないようが書かれている。　など

49ページ

話題と、れいの書かれ方をとらえる

- 題名や「はじめ」から、話題をたしかめる。
- 「中」のれいと話題とのつながりをとらえ、それぞれの段落の役わりを考える。
- れいをあげるじゅんじょや写真の使い方など、筆者のれいの書き方に気をつける。

せつめいする文章を読んで、感想をつたえ合う

104ページ

- 読んだ感想をつたえ合うときには、自分の考えと同じところやちがうところに着目して聞く。　など

物語・読書

三年上

場面のようすや、登場人物の気もちをそうぞうする

- したことや言ったこと、気もちをあらわす言葉に気をつけてそうぞうする。

登場人物のへんかに気をつけて読む

- どんな出来事がおこったか、そのときの登場人物の気持ちや様子はどのような言葉に表れているか、出来事がおこる前と後とでどうかわったかをたしかめる。

図鑑や科学読み物を読む

- 図鑑や科学読み物で何かを調べるときは、目次やさくいんを使うとよい。　など

物語に対する感想をもつ

- 場面と場面をくらべて、人物の様子や出来事のちがいと、その理由について考える。
- 物語をだれの立場から読み、出来事をどうとらえるかによって、物語に対する感想はちがってくる。

28ページ

組み立てをとらえる

- 民話や昔話を読むときには、組み立てをとらえながら読む。
  ① 始まり　② 出来事（事件）が起こる
  ③ 出来事（事件）が解決する　④ むすび　など

80ページ

登場人物のせいかくをとらえる

- 登場人物のせいかくは、次のようなことからとらえられる。
  - その人物の会話や行動。
  - 語り手や他の登場人物が、その人物について語る言葉。　など

136ページ

こんな場面でいかそう

〈せつめいする文章〉

〈物語〉

〈読書〉

インタビュー　知りたいことをきく

物事について調べる方法の一つに、「インタビュー」があります。これは、人に会って、知りたいことについて話をきくことです。インタビューの方法をたしかめましょう。

インタビューをするまで

1 インタビューをする相手を決める。

調べたいことに合わせて、インタビューをする人を決める。

町のためにはたらく人について、調べて発表することになった。消防士さんにインタビューしよう。

2 しつもんすることを考える。

ききたいことを考え、メモしておく。

インタビューをする相手
——ひかり消防しょの方
三年一組　高山みお

①何時から何時まではたらいているか。
②出動にどのくらいの時間がかかるか。
③たいへんなことは何か。
④仕事中に気をつけていることは何か。
⑤火事をふせぐために、わたしたちにできることは何か。

3 インタビューを申しこむ。

インタビューをしたい相手におねがいをし、相手の都合に合わせて日時を決める。

インタビューをするとき

4 インタビューをする。

決めた日時に会いに行き、インタビューをする。

- あいさつをして、名前を言う。
- 何をききに来たのかをつたえる。

高山　こんにちは。わたしは、ひかり小学校三年の高山です。今、町のためにはたらく人について調べています。よろしくおねがいします。しつもんしたいことが五つあります。まず、はじめのしつもんです。何時から何時までではたらいていますか。

消防士の南さん　わたしたちは交代で、二十四時間はたらいていますよ。どのように交代しているのですか。

…

高山　次のしつもんです。出動には、どのくらいの時間がかかりますか。

消防士の南さん　れんらくが来てから、一分で出動します。

…

高山　しつもんは、これで終わりです。

- メモをもとに、じゅんじょよくたずねる。
- 大事なことはメモを取る。
- 分からないことは、たしかめる。
- 相手を見て、話を聞く。

5 お礼をつたえる。

「ありがとうございました。」と、ていねいにお礼を言う。

本の世界を広げよう

物語・絵本

おにぼう

くすのき しげのり 作
伊藤 秀男 絵

友だちを助けたい。人間となかよくしたい。おにぼうは、大雨から村の田んぼをすくうために、大岩を動かしました。

読書マラソン、チャンピオンはだれ？

クラウディア＝ミルズ 作
若林 千鶴 訳
堀川 理万子 絵

ひと月で、全校のみんなが二千さつの本を読めたら、校長先生がひげをそる。読書マラソンの始まりです。

火曜日のごちそうはヒキガエル

ラッセル＝E＝エリクソン 作
ローレンス＝ディ＝フィオリ 絵
佐藤 凉子 訳

ミミズクにつかまったヒキガエルのウォートン。次の火曜日はミミズクのたんじょう日で、ごちそうは――。

キュッパのはくぶつかん

オーシル＝カンスタ＝ヨンセン 作
ひだに れいこ 訳

なんでも集めてしまうくせがある、丸太の男の子キュッパ。集めすぎて、しまう場所がなくなったキュッパは――。

わすれられない おくりもの

スーザン＝バーレイ 作・絵
小川 仁央 訳

森のみんなは、かしこくてやさしいアナグマが大すき。アナグマは、みんなにおくり物をのこしてくれました。

アイヌのむかしばなし ひまなこなべ

萱野 茂 文
どい かや 絵

アイヌは、北海道などに昔から住む人たちです。くまの神様の話を通して、アイヌの人々の声に耳をすませましょう。

かあちゃん取扱説明書

いとう みく 作
佐藤 真紀子 絵

口うるさくてこわいかあちゃんを、思うようにそうじゅうしたい。トリセツを作ったらうまくいくかな。かあちゃんを研究中。

科学・ちしき

たのしく読める世界のすごい歴史人物伝

伊藤 純郎 監修

世界のれきしをつくった二十五人をしょうかいしています。どの「きみへのメッセージ」が、心にのこるでしょうか。

干し柿

西村 豊 写真・文

とてもあまくておいしい干し柿。もともとは、しぶい柿から作るのです。どのようにしてあまくするのでしょう。

ダンゴウオの海

鍵井 靖章 写真・文

二〇一一年三月に起きた東日本大震災。津波でかわってしまった海にも、新たな命が生まれています。

これってどうちがうの!? ①身近なもののちがい

深谷 圭助 監修

ソーセージとウインナー。ものさしと定規。にているけれど、どこかちがう。そのちがいが見つかる楽しい本です。

生き物たちの冬ごし図鑑 昆虫

寒い時期に、すがたが見えなくなる昆虫たち。いったい、どこへ行ってしまったのでしょうか。

ぼくの自然観察記 ロゼットのたんけん

おくやま ひさし

地面にはりつくように葉を広げた草の形を「ロゼット」とよびます。空き地や道などで見つけてみましょう。

詩・言葉

カタカナ ダイボウケン

宮下 すずか 作
みやざき ひろかず 絵

本やノートを開いたままにしておくと、そこに書かれた文字たちが夜中におしゃべりしたり、とび出したりします。

ふくはなにからできてるの？

佐藤 哲也 文
網中 いづる 絵

見たりさわったりするだけで、今、あなたが着ている服が、何からできているのか分かるでしょうか。

おいしい根っこ

中野 明正 編著
根研究学会 協力
小泉 光久 文
堀江 篤史 絵

サツマイモ、ニンジン、ゴボウ――どれもおいしい根っこのなかまです。土の中を見てみましょう。

十二支のことわざえほん

高畠 純

ねずみ、牛、とら――。昔、方角や時こくなどを表すのに使われた、十二の動物が出てくることわざを集めた絵本です。

読み終わった本には、□にしるしをつけましょう。

知ると楽しい「故事成語」

いろいろな故事成語を知り、生活の中で使ってみましょう。

杞憂

意味

心配しなくてもよいことを、むやみに心配すること。取りこし苦労。

言葉の由来

昔、中国の杞という国に、とても心配性の人がいた。その人は、いつも天地がくずれ落ちてくるのではないかと心配し、ねることも食べることもできないほどだった。

登竜門

意味

むずかしいが、そこをこえればせいこうし、出世できるという大切な場所。

言葉の由来

黄河（中国の川）には、竜門という流れの急な場所があり、コイがここを登ることができると、竜になるというでんせつがあった。

蛇足

意味

ひつようのないものをくわえることで、全体をだめにしてしまうこと。よけいなつけ足し。

言葉の由来

だれが蛇の絵をいちばん速くかけるか、きょうそうした。先にかきあげた人が、他の人がまだかいているのを見て、調子に乗って、あまった時間で蛇に足をかき足した。すると、「蛇に足はない。」と言われて負けてしまった。

蛍雪の功

意味

苦労して学問にはげむこと。また、そのせいか。

言葉の由来

まずしくて、明かりをつけるための油を買えない人が、夏には蛍を集めて、その光で本を読んだ。同じようにべつのまずしい人は、冬に雪明かりで本を読んだ。後に、どちらの人もりっぱな地位についた。

これまでに習った漢字

△は、これから習う読み方。（　）は、小学校では習わない読み方。

□2 夏 ⑩ △カ（ゲ）なつ
チェックらん
学年
漢字
画数
読み方

あ

□3 悪 ⑪ アク（オ）わる**い**
□3 安 ⑥ アン やす**い**

い

□3 意 ⑬ イ
□1 一 ① イチ（△イツ）ひと**つ**
□2 引 ④ イン ひ**く**・ひ**ける**
□3 員 ⑩ イン

う

□1 右 ⑤ ウ（△ユウ）みぎ
□2 羽 ⑥ ウ（は）はね
□1 雨 ⑧ ウ（△あめ）あま
□3 運 ⑫ ウン はこ**ぶ**
□2 雲 ⑫ ウン（△くも）

え

□3 泳 ⑧ エイ およ**ぐ**
□1 円 ④ エン まる**い**
□2 園 ⑬ エン（その）
□2 遠 ⑬ エン（オン）とお**い**

お

□1 王 ④ オウ
□3 横 ⑮ オウ よこ
□3 屋 ⑨ オク や
□1 音 ⑨ オン（イン）おと・ね
□3 温 ⑫ オン あたた**かい**・あたた**まる**・あたた**める**

か

□1 下 ③ カ ゲ し た もと（さ**げる**・さ**がる**）く だ（く だ**する**）く だ**さる**・お**ろす**・お**りる**

き

□2 会 ⑥ カイ（エ）あ**う**
□3 海 ⑨ カイ うみ
□3 界 ⑨ カイ
□2 絵 ⑫ カイ（△エ）
□3 開 ⑫ カイ ひらく・ひらけ**る**・あ**く**・あけ**る**
□1 貝 ⑦ かい
□2 外 ⑤ ガイ（ゲ）そと・△ほか・△はず**す**・△はず**れる**
□2 角 ⑦ カク（△かど）△つの
□1 学 ⑧ ガク まな**ぶ**
□2 楽 ⑬ ガク（△ラク）たの**しい**・たの**しむ**

く

□2 京 ⑧ キョウ（ケイ）
□2 強 ⑪ キョウ（ゴウ）つよ**い**・つよ**まる**・つよ**める**（し**いる**）
□2 教 ⑪ キョウ おし**える**・△おそ**わる**
□3 局 ⑦ キョク
□1 玉 ⑤ ギョク（△たま）
□2 近 ⑦ キン ちか**い**
□1 金 ⑧ キン（△コン）（かね・かな）
□3 銀 ⑭ ギン
□3 区 ④ ク
□3 具 ⑧ グ
□1 空 ⑧ クウ（△そら）あ**く**・（あ**ける**）から
□2 グン
□3 ケン
□1 見 ⑦ ケン み**る**・み**える**・（み**せる**）
□1 犬 ④ ケン（△いぬ）
□1 月 ④ ゲツ（ガツ）つき
□3 決 ⑦ ケツ き**める**・（き**まる**）
□2 計 ⑨ ケイ（△はか**る**・はか**らう**）
□3 係 ⑨ ケイ かか**る**・（かかり）
□2 形 ⑦ ケイ ギョウ（△かた）かたち
□2 兄 ⑤ ケイ（キョウ）あに
□2 元 ④ ゲン（△ガン）もと

こ

□2 言 ⑦ ゲン（△ゴン）こと
□2 原 ⑩ ゲン はら
□2 戸 ④ コ（△と）
□2 古 ⑤ コ（△ふる）ふる**い**・ふる**す**
□1 五 ④ ゴ いつ・いつ**つ**
□2 午 ④ ゴ
□2 後 ⑨ ゴ（△ご）（△のち）うしろ・あと・（おく**れる**）
□2 語 ⑭ ゴ かた**る**・（かたら**う**）
□1 口 ③ コウ（△く）くち
□2 工 ③ コウ（△く）
□2 公 ④ コウ（おおやけ）
□2 広 ⑤ コウ（△ひろ）ひろ**い**・ひろ**まる**・ひろ**める**・ひろ**がる**・ひろ**げる**
□2 交 ⑥ コウ（△まじ）わ**る**・（△まじ）え**る**・（△まじ）る・（△まざ）る・（まぜ）る・（かう）（かわす）
□2 光 ⑥ コウ（△ひか）る・ひかり
□3 向 ⑥ コウ（△むく）・（む**ける**）・（む**かう**）・（む**こう**）
□2 考 ⑥ コウ（△かんがえ）る
□2 行 ⑥ コウ ギョウ（アン）（い**く**）・（△ゆく）おこな**う**
□1 校 ⑩ コウ
□2 高 ⑩ コウ（△たか）い・たか**まる**・たか**める**

さ

□1 左 ⑤ サ（△ひだり）
□2 才 ③ サイ
□3 祭 ⑪ サイ まつ**る**・まつ**り**
□2 黄 ⑪ コウ（オウ）き（こ）
□3 港 ⑫ コウ みなと
□3 号 ⑤ ゴウ
□2 合 ⑥ ゴウ（ガッ）（△カッ）あう・あわす・あわ**せる**
□2 谷 ⑦ コク（たに）
□2 国 ⑧ コク くに
□2 黒 ⑪ コク くろ・くろ**い**
□2 今 ④ コン（キン）いま
□2 細 ⑪ サイ（△こまか）い・ほそ**い**・ほそ**る**
□2 作 ⑦ サク（△サ）つく**る**
□1 三 ③ サン み・み**つ**・み**っつ**
□1 山 ③ サン やま
□2 算 ⑭ サン
□1 子 ③ シ こ
□3 止 ④ シ（△と）と**まる**・と**める**
□3 仕 ⑤ シ（ジ）つかえ**る**
□1 四 ⑤ シ よ・よ**つ**・よっ**つ**・よん
□2 市 ⑤ シ（△いち）

し

□2 矢 ⑤ シ（や）
□3 死 ⑥ シ しぬ
□1 糸 ⑥ シ（△いと）
□3 使 ⑧ シ つかう
□2 姉 ⑧ シ（あね）
□2 思 ⑨ シ（△おも）う
□3 指 ⑨ シ ゆび・さす
□2 紙 ⑩ シ かみ
□3 詩 ⑬ シ
□1 字 ⑥ ジ（あざ）
□2 寺 ⑥ ジ（△てら）
□3 次 ⑥ ジ（シ）つぎ
□1 耳 ⑥ ジ（み）みみ
□2 自 ⑥ ジ（△シ）△みずから
□2 魚 ⑪ ギョ（△うお）さかな
□3 去 ⑤ キョ コ さる
□2 牛 ④ ギュウ（△うし）
□3 球 ⑪ キュウ たま
□1 休 ⑥ キュウ やす**む**・やす**まる**・やす**める**
□2 弓 ③ キュウ（ゆみ）
□1 九 ② キュウ ク ここの・ここの**つ**
□3 客 ⑨ キャク（カク）
□2 帰 ⑩ キ（△かえ）る・かえ**す**
□2 記 ⑩ キ（△しる）す
□2 汽 ⑦ キ
□1 気 ⑥ キ ケ

□2 京 ⑧ キョウ（ケイ）
□2 強 ⑪ キョウ（ゴウ）つよ**い**・つよ**まる**・つよ**める**（し**いる**）
□2 教 ⑪ キョウ おし**える**・△おそ**わる**
□3 局 ⑦ キョク
□1 玉 ⑤ ギョク（△たま）
□2 近 ⑦ キン ちか**い**
□1 金 ⑧ キン（△コン）（かね・かな）
□3 銀 ⑭ ギン
□3 区 ④ ク
□3 具 ⑧ グ
□1 空 ⑧ クウ（△そら）あ**く**・（あ**ける**）から
□2 グン
□3 ケン
□1 見 ⑦ ケン み**る**・み**える**・（み**せる**）
□1 犬 ④ ケン（△いぬ）
□1 月 ④ ゲツ（ガツ）つき
□3 決 ⑦ ケツ き**める**・（き**まる**）
□2 計 ⑨ ケイ（△はか**る**・はか**らう**）
□3 係 ⑨ ケイ かか**る**・（かかり）
□2 形 ⑦ ケイ ギョウ（△かた）かたち
□2 兄 ⑤ ケイ（キョウ）あに
□2 元 ④ ゲン（△ガン）もと

け

□2 言 ⑦ ゲン（△ゴン）こと
□2 原 ⑩ ゲン はら
□2 戸 ④ コ（△と）
□2 古 ⑤ コ（△ふる）ふる**い**・ふる**す**
□1 五 ④ ゴ いつ・いつ**つ**
□2 午 ④ ゴ
□2 後 ⑨ ゴ（△ご）（△のち）うしろ・あと・（おく**れる**）
□2 語 ⑭ ゴ かた**る**・（かたら**う**）
□1 口 ③ コウ（△く）くち
□2 工 ③ コウ（△く）
□2 公 ④ コウ（おおやけ）
□2 広 ⑤ コウ（△ひろ）ひろ**い**・ひろ**まる**・ひろ**める**・ひろ**がる**・ひろ**げる**
□2 交 ⑥ コウ（△まじ）わ**る**・（△まじ）え**る**・（△まじ）る・（△まざ）る・（まぜ）る・（かう）（かわす）
□2 光 ⑥ コウ（△ひか）る・ひかり
□3 向 ⑥ コウ（△むく）・（む**ける**）・（む**かう**）・（む**こう**）
□2 考 ⑥ コウ（△かんがえ）る
□2 行 ⑥ コウ ギョウ（アン）（い**く**）・（△ゆく）おこな**う**
□1 校 ⑩ コウ
□2 高 ⑩ コウ（△たか）い・たか**まる**・たか**める**

こ

□2 戸 ④ コ（△と）
□2 古 ⑤ コ（△ふる）ふる**い**・ふる**す**
□1 五 ④ ゴ いつ・いつ**つ**
□2 午 ④ ゴ
□2 後 ⑨ ゴ（△ご）（△のち）うしろ・あと・（おく**れる**）
□2 語 ⑭ ゴ かた**る**・（かたら**う**）
□1 口 ③ コウ（△く）くち
□2 工 ③ コウ（△く）
□2 公 ④ コウ（おおやけ）
□2 広 ⑤ コウ（△ひろ）ひろ**い**・ひろ**まる**・ひろ**める**・ひろ**がる**・ひろ**げる**
□2 交 ⑥ コウ（△まじ）わ**る**・（△まじ）え**る**・（△まじ）る・（△まざ）る・（まぜ）る・（かう）（かわす）
□2 光 ⑥ コウ（△ひか）る・ひかり
□3 向 ⑥ コウ（△むく）・（む**ける**）・（む**かう**）・（む**こう**）
□2 考 ⑥ コウ（△かんがえ）る
□2 行 ⑥ コウ ギョウ（アン）（い**く**）・（△ゆく）おこな**う**
□1 校 ⑩ コウ
□2 高 ⑩ コウ（△たか）い・たか**まる**・たか**める**

さ

□1 左 ⑤ サ（△ひだり）
□2 才 ③ サイ
□3 祭 ⑪ サイ まつ**る**・まつ**り**
□2 黄 ⑪ コウ（オウ）き（こ）
□3 港 ⑫ コウ みなと
□3 号 ⑤ ゴウ
□2 合 ⑥ ゴウ（ガッ）（△カッ）あう・あわす・あわ**せる**
□2 谷 ⑦ コク（たに）
□2 国 ⑧ コク くに
□2 黒 ⑪ コク くろ・くろ**い**
□2 今 ④ コン（キン）いま
□2 細 ⑪ サイ（△こまか）い・ほそ**い**・ほそ**る**
□2 作 ⑦ サク（△サ）つく**る**
□1 三 ③ サン み・み**つ**・み**っつ**
□1 山 ③ サン やま
□2 算 ⑭ サン
□1 子 ③ シ こ
□3 止 ④ シ（△と）と**まる**・と**める**
□3 仕 ⑤ シ（ジ）つかえ**る**
□1 四 ⑤ シ よ・よ**つ**・よっ**つ**・よん
□2 市 ⑤ シ（△いち）

し

□2 矢 ⑤ シ（や）
□3 死 ⑥ シ しぬ
□1 糸 ⑥ シ（△いと）
□3 使 ⑧ シ つかう
□2 姉 ⑧ シ（あね）
□2 思 ⑨ シ（△おも）う
□3 指 ⑨ シ ゆび・さす
□2 紙 ⑩ シ かみ
□3 詩 ⑬ シ
□1 字 ⑥ ジ（あざ）
□2 寺 ⑥ ジ（△てら）
□3 次 ⑥ ジ（シ）つぎ
□1 耳 ⑥ ジ（み）みみ
□2 自 ⑥ ジ（△シ）△みずから
□2 魚 ⑪ ギョ（△うお）さかな
□3 去 ⑤ キョ コ さる
□2 牛 ④ ギュウ（△うし）
□3 球 ⑪ キュウ たま
□1 休 ⑥ キュウ やす**む**・やす**まる**・やす**める**
□2 弓 ③ キュウ（ゆみ）
□1 九 ② キュウ ク ここの・ここの**つ**
□3 客 ⑨ キャク（カク）
□2 帰 ⑩ キ（△かえ）る・かえ**す**
□2 記 ⑩ キ（△しる）す
□2 汽 ⑦ キ
□1 気 ⑥ キ ケ

□3 事 ⑧ ジ（ズ） こと
□3 持 ⑨ ジ もつ
□2 時 ⑩ ジ とき
□3 式 ⑥ シキ
□1 七 ② シチ（なな） なな・なの・なつ
□2 室 ⑨ シツ（むろ）
□3 実 ⑧ ジツ みのる
□3 写 ⑤ シャ うつす・うつる
□2 社 ⑦ シャ △やしろ
□1 車 ⑦ シャ くるま
□2 弱 ⑩ ジャク よわい・よわる・よわまる・よわめる
□1 手 ④ △シュ て・（た）

□2 首 ⑨ △シュ くび
□3 酒 ⑩ シュ さけ・さか
□3 拾 ⑨ シュ（ジュウ） ひろう
□2 秋 ⑨ △シュウ あき
□3 終 ⑪ シュウ おわる・おえる
□3 習 ⑪ シュウ ならう
□2 週 ⑪ シュウ
□3 集 ⑫ シュウ あつまる・あつめる（つどう）
□1 十 ② ジュウ（ジッ〈ジュッ〉） △とお
□3 住 ⑦ ジュウ すむ・すまう
□1 出 ⑤ シュツ（スイ） でる・だす
□2 春 ⑨ △シュン はる

□3 所 ⑧ ショ ところ
□2 書 ⑩ ショ かく
□1 女 ③ △ジョ（ニョ〈ニョウ〉） おんな（め）
□3 助 ⑦ ジョ たすける・たすかる（すけ）
□1 小 ③ ショウ ちいさい・△お・こ
□1 少 ④ ショウ すくない・すこし
□3 商 ⑪ ショウ（あきなう）
□3 章 ⑪ ショウ
□1 上 ③ ジョウ（ショウ） うえ・うわ・かみ・あげる・あがる・のぼる・のぼせる（のぼす）
□2 場 ⑫ ジョウ ば

□3 事 ⑧ ジ（ズ） こと
□3 持 ⑨ ジ もつ
□2 時 ⑩ ジ とき
□3 式 ⑥ シキ
□1 七 ② シチ（なな） なな・なの・なつ
□2 室 ⑨ シツ（むろ）
□3 実 ⑧ ジツ みのる
□3 写 ⑤ シャ うつす・うつる
□2 社 ⑦ シャ △やしろ
□1 車 ⑦ シャ くるま
□2 弱 ⑩ ジャク よわい・よわる・よわまる・よわめる
□1 手 ④ △シュ て・（た）

□2 首 ⑨ △シュ くび
□3 酒 ⑩ シュ さけ・さか
□3 拾 ⑨ シュ（ジュウ） ひろう
□2 秋 ⑨ △シュウ あき
□3 終 ⑪ シュウ おわる・おえる
□3 習 ⑪ シュウ ならう
□2 週 ⑪ シュウ
□3 集 ⑫ シュウ あつまる・あつめる（つどう）
□1 十 ② ジュウ（ジッ〈ジュッ〉） △とお
□3 住 ⑦ ジュウ すむ・すまう
□1 出 ⑤ シュツ（スイ） でる・だす
□2 春 ⑨ △シュン はる

□3 所 ⑧ ショ ところ
□2 書 ⑩ ショ かく
□1 女 ③ △ジョ（ニョ〈ニョウ〉） おんな（め）
□3 助 ⑦ ジョ たすける・たすかる（すけ）
□1 小 ③ ショウ ちいさい・△お・こ
□1 少 ④ ショウ すくない・すこし
□3 商 ⑪ ショウ（あきなう）
□3 章 ⑪ ショウ
□1 上 ③ ジョウ（ショウ） うえ・うわ・かみ・あげる・あがる・のぼる・のぼせる（のぼす）
□2 場 ⑫ ジョウ ば

□2 色 ⑥ △シキ（ショク） いろ
□2 食 ⑨ ショク（ジキ） △くら（たべる）
□3 植 ⑫ ショク うえる・うわる
□2 心 ④ シン こころ
□3 申 ⑤ シン（もうす）
□3 身 ⑦ シン み
□3 真 ⑩ シン ま
□3 深 ⑪ シン ふかい・ふかまる・ふかめる
□1 森 ⑫ △シン もり
□2 新 ⑬ シン あたらしい・△あら・△にい
□2 親 ⑯ シン おや・したしい・したしむ

□2 西 ⑥ △セイ △サイ にし
□2 声 ⑦ △セイ（ショウ） こえ（こわ）
□1 青 ⑧ △セイ（ショウ） あお・あおい
□2 星 ⑨ △セイ（ショウ） ほし
□2 晴 ⑫ セイ はれる・はらす
□3 整 ⑯ セイ ととのえる・ととのう
□1 夕 ③ セキ ゆう
□1 石 ⑤ セキ △シャク（コク） いし
□1 赤 ⑦ △セキ（シャク） あか・あかい・あからむ・あからめる
□3 昔 ⑧ セキ（シャク） むかし

□2 切 ④ セツ（サイ） きる・きれる
□2 雪 ⑪ △セツ ゆき
□1 千 ③ セン △ち
□1 川 ③ セン（かわ）
□1 先 ⑥ セン さき
□2 船 ⑪ △セン ふね・△ふな
□2 線 ⑮ セン
□3 全 ⑥ ゼン まったく・すべて
□2 前 ⑨ ゼン まえ

□2 組 ⑪ △ソ △くむ・くみ
□1 早 ⑥ ソウ（サッ） はや・はやまる・はやめる

□1 人 ② ジン ニン ひと
□2 図 ⑦ ズ（トズ） はかる
□1 水 ④ スイ みず
□2 数 ⑬ スウ（ス） かず・かぞえる

□3 世 ⑤ セイ よ
□1 正 ⑤ △セイ（ショウ） ただす・ただしい・△まさ
□1 生 ⑤ △セイ（ショウ） △き・△なま・はえる・はやす・はやる・おう・うむ・うまれる・いける・いかす・いきる

□2 馬 ⑩ バ △ま・うま
□2 売 ⑦ バイ うる・うれる
□2 買 ⑫ △バイ かう
□1 白 ⑤ △ハク（ビャク） しろ・しらい・しら
□2 麦 ⑦ バク（むぎ）
□1 八 ② ハチ やっつ・やつ・よう
□3 発 ⑨ ハツ（ホツ）
□2 半 ⑤ ハン △なかば
□3 坂 ⑦ ハン（さか）
□3 板 ⑧ ハン いた
□2 番 ⑫ バン

□1 年 ⑥ ネン とし
□3 農 ⑬ ノウ

□2 内 ④ ナイ（ダイ） うち
□2 南 ⑨ △ナン（ナ） みなみ
□1 二 ② ニ ふた・ふたつ
□2 肉 ⑥ ニク
□1 日 ④ ニチ ジツ △か・ひ
□1 入 ② ニュウ いる・いれる・はいる

□2 冬 ⑤ △トウ ふゆ
□2 当 ⑥ トウ あたる・あてる
□2 東 ⑧ トウ ひがし
□3 登 ⑫ トウ のぼる
□2 答 ⑫ △トウ こたえる・こたえ
□2 頭 ⑯ △ズ（ト） あたま（かしら）
□2 同 ⑥ △ドウ おなじ
□3 動 ⑪ ドウ △うごく・うごかす
□3 童 ⑫ ドウ（わらべ）
□2 道 ⑫ ドウ（トウ） みち
□2 刀 ② △トウ かたな

□1 大 ③ ダイ タイ おお・おおきい・おおいに
□2 台 ⑤ ダイ △タイ
□3 題 ⑱ ダイ
□3 短 ⑫ タン みじかい
□1 男 ⑦ △ダン △ナン おとこ

□2 地 ⑥ チ ジ
□2 池 ⑥ △チ いけ
□2 知 ⑧ △チ しる
□1 竹 ⑥ △チク たけ
□2 茶 ⑨ チャ（サ）
□3 着 ⑫ チャク（ジャク） きる・きせる・つく・つける

□1 中 ④ チュウ ジュウ なか
□1 虫 ⑥ チュウ むし
□2 昼 ⑨ △チュウ ひる
□3 柱 ⑨ チュウ はしら
□1 町 ⑦ チョウ まち
□2 長 ⑧ チョウ ながい
□2 鳥 ⑪ △チョウ とり
□2 朝 ⑫ チョウ あさ
□3 調 ⑮ チョウ しらべる・（ととのう）・（ととのえる）
□2 直 ⑧ チョク △ただちに・なおす・なおる
□2 通 ⑩ △ツウ（ツ） とおる・とおす・かよう

□3 鉄 ⑬ テツ
□1 天 ④ テン（あめ） あま
□2 店 ⑧ テン みせ
□2 点 ⑨ テン
□1 田 ⑤ デン た
□2 電 ⑬ デン
□1 土 ③ ド △つち
□3 都 ⑪ ト ツ みやこ

□2 弟 ⑦ テイ（ダイ） おとと
□3 定 ⑧ テイ ジョウ さだめる・さだまる（さだか）

□2 冬 ⑤ △トウ ふゆ
□2 当 ⑥ トウ あたる・あてる
□2 東 ⑧ トウ ひがし
□3 登 ⑫ トウ のぼる
□2 答 ⑫ △トウ こたえる・こたえ
□2 頭 ⑯ △ズ（ト） あたま（かしら）
□2 同 ⑥ △ドウ おなじ
□3 動 ⑪ ドウ △うごく・うごかす
□3 童 ⑫ ドウ（わらべ）
□2 道 ⑫ ドウ（トウ） みち
□2 刀 ② △トウ かたな

□2 内 ④ ナイ（ダイ） うち
□2 南 ⑨ △ナン（ナ） みなみ
□1 二 ② ニ ふた・ふたつ
□2 肉 ⑥ ニク
□1 日 ④ ニチ ジツ △か・ひ
□1 入 ② ニュウ いる・いれる・はいる

□3 農 ⑬ ノウ
□1 年 ⑥ ネン とし

□2 馬 ⑩ バ △ま・うま
□2 売 ⑦ バイ うる・うれる
□2 買 ⑫ △バイ かう
□1 白 ⑤ △ハク（ビャク） しろ・しらい・しら
□2 麦 ⑦ バク（むぎ）
□1 八 ② ハチ やっつ・やつ・よう
□3 発 ⑨ ハツ（ホツ）
□2 半 ⑤ ハン △なかば
□3 坂 ⑦ ハン（さか）
□3 板 ⑧ ハン いた
□2 番 ⑫ バン

□2 弟 ⑦ テイ（ダイ） おとと
□3 定 ⑧ テイ ジョウ さだめる・さだまる（さだか）
□3 鉄 ⑬ テツ
□1 天 ④ テン（あめ） あま
□2 店 ⑧ テン みせ
□2 点 ⑨ テン
□1 田 ⑤ デン た
□2 電 ⑬ デン
□1 土 ③ ド △つち
□3 都 ⑪ ト ツ みやこ

□2 刀 ② △トウ かたな
□2 冬 ⑤ △トウ ふゆ
□2 当 ⑥ トウ あたる・あてる
□2 東 ⑧ トウ ひがし
□3 登 ⑫ トウ のぼる
□2 答 ⑫ △トウ こたえる・こたえ
□2 頭 ⑯ △ズ（ト） あたま（かしら）
□2 同 ⑥ △ドウ おなじ
□3 動 ⑪ ドウ △うごく・うごかす
□3 童 ⑫ ドウ（わらべ）
□2 道 ⑫ ドウ（トウ） みち

□1 大 ③ ダイ タイ おお・おおきい・おおいに
□2 台 ⑤ ダイ △タイ
□3 題 ⑱ ダイ
□3 短 ⑫ タン みじかい
□1 男 ⑦ △ダン △ナン おとこ

□2 地 ⑥ チ ジ
□2 池 ⑥ △チ いけ
□2 知 ⑧ △チ しる
□1 竹 ⑥ △チク たけ
□2 茶 ⑨ チャ（サ）
□3 着 ⑫ チャク（ジャク） きる・きせる・つく・つける

□1 中 ④ チュウ ジュウ なか
□1 虫 ⑥ チュウ むし
□2 昼 ⑨ △チュウ ひる
□3 柱 ⑨ チュウ はしら
□1 町 ⑦ チョウ まち
□2 長 ⑧ チョウ ながい
□2 鳥 ⑪ △チョウ とり
□2 朝 ⑫ チョウ あさ
□3 調 ⑮ チョウ しらべる・（ととのう）・（ととのえる）
□2 直 ⑧ チョク △ただちに・なおす・なおる
□2 通 ⑩ △ツウ（ツ） とおる・とおす・かよう

□2 体 ⑦ タイ（テイ） からだ
□3 対 ⑦ タイ（ツイ）
□2 太 ④ △タイ ふと・ふとい・ふとる
□2 多 ⑥ △タ おお・おい

た

□1 村 ⑦ △ソン むら
□3 族 ⑪ ゾク
□1 足 ⑦ ソク あし・たる・たりる・たす
□3 想 ⑬ ソウ（ソ）
□3 送 ⑨ ソウ おくる
□1 草 ⑨ ソウ くさ
□3 相 ⑨ ソウ（ショウ） あい
□2 走 ⑦ ソウ はしる

□3 着 ⑫ チャク（ジャク） きる・きせる・つく・つける
□2 茶 ⑨ チャ（サ）
□1 竹 ⑥ △チク たけ
□2 知 ⑧ △チ しる
□2 池 ⑥ △チ いけ
□2 地 ⑥ チ ジ

ち

□1 男 ⑦ △ダン △ナン おとこ
□3 短 ⑫ タン みじかい
□3 題 ⑱ ダイ
□2 台 ⑤ ダイ △タイ
□1 大 ③ ダイ タイ おお・おおきい・おおいに

□2 通 ⑩ △ツウ（ツ） とおる・とおす・かよう

つ

□2 直 ⑧ チョク △ただちに・なおす・なおる
□3 調 ⑮ チョウ しらべる・（ととのう）・（ととのえる）
□2 朝 ⑫ チョウ あさ
□2 鳥 ⑪ △チョウ とり
□2 長 ⑧ チョウ ながい
□1 町 ⑦ チョウ まち
□3 柱 ⑨ チュウ はしら
□2 昼 ⑨ △チュウ ひる
□1 虫 ⑥ チュウ むし
□1 中 ④ チュウ ジュウ なか

□1 土 ③ ド △つち
□3 都 ⑪ ト ツ みやこ

と

□2 電 ⑬ デン
□1 田 ⑤ デン た
□2 点 ⑨ テン
□2 店 ⑧ テン みせ
□1 天 ④ テン（あめ） あま
□3 鉄 ⑬ テツ
□3 定 ⑧ テイ ジョウ さだめる・さだまる（さだか）
□2 弟 ⑦ テイ（ダイ） おとと

て

□2 読 ⑭ △トク ドク △よむ
□2 道 ⑫ ドウ（トウ） みち
□3 童 ⑫ ドウ（わらべ）
□3 動 ⑪ ドウ △うごく・うごかす
□2 同 ⑥ △ドウ おなじ
□2 頭 ⑯ △ズ（ト） あたま（かしら）
□2 答 ⑫ △トウ こたえる・こたえ
□3 登 ⑫ トウ のぼる
□2 東 ⑧ トウ ひがし
□2 当 ⑥ トウ あたる・あてる
□2 冬 ⑤ △トウ ふゆ
□2 刀 ② △トウ かたな

□3 農 ⑬ ノウ

の

□1 年 ⑥ ネン とし

ね

□1 入 ② ニュウ いる・いれる・はいる
□1 日 ④ ニチ ジツ △か・ひ
□2 肉 ⑥ ニク
□1 二 ② ニ ふた・ふたつ

に

□2 南 ⑨ △ナン（ナ） みなみ
□2 内 ④ ナイ（ダイ） うち

な

□2 番 ⑫ バン
□3 板 ⑧ ハン いた
□3 坂 ⑦ ハン（さか）
□2 半 ⑤ ハン △なかば
□3 発 ⑨ ハツ（ホツ）
□1 八 ② ハチ やっつ・やつ・よう
□2 麦 ⑦ バク（むぎ）
□1 白 ⑤ △ハク（ビャク） しろ・しらい・しら
□2 買 ⑫ △バイ かう
□2 売 ⑦ バイ うる・うれる
□2 馬 ⑩ バ △ま・うま

は

この本で習う漢字

（　）は、小学校では習わない読み方。

11 ―ページ
起 ―漢字
10画 ―画数
読み方
筆順
使い方

キ　おきる　おこる　おこす
起起起起起起起起起起
起立　はね起きる　火事が起こる　体を起こす

ちいちゃんのかげおくり

11 起 10画
起起起起起起起起起起
キ　おきる　おこる　おこす
起立　はね起きる　火事が起こる　体を起こす

16 列 6画
列列列列列列
レツ
列車　行列

16 乗 9画
乗乗乗乗乗乗乗乗乗
ジョウ　のる　のせる
乗客　乗車　列車に乗る　客を乗せる

17 急 9画
急急急急急急急急急
キュウ　いそぐ
急行　急用　道を急ぐ

17 追 9画
追追追追追追追追追
ツイ　おう
追究　追いかける

18 血 6画
血血血血血血
ケツ　ち
出血　止血　血が出る

19 暗 13画
暗暗暗暗暗暗暗暗暗暗暗暗暗
アン　くらい
暗記　暗号　空が暗い

19 橋 16画
橋橋橋橋橋橋橋橋橋橋橋橋橋橋橋橋橋
キョウ　はし
歩道橋　鉄橋　橋の下

22 暑 12画
暑暑暑暑暑暑暑暑暑暑暑暑
ショ　あつい
暑中みまい　暑い夏

22 寒 12画
寒寒寒寒寒寒寒寒寒寒寒寒
カン　さむい
寒気　寒い冬　寒空

24 軽 12画
軽軽軽軽軽軽軽軽軽軽軽軽
ケイ　かる**い**　（かろ**やか**）
軽食　軽いかばん

25 命 8画
命命命命命命命命
メイ　（ミョウ）　いのち
命中　生命　短い命

26 第 11画
第第第第第第第第第第第
ダイ
第一

修飾語を使って書こう

29 主 5画
主主主主主
シュ　（ス）　ぬし　おも
主語　主人公　持ち主　主な登場人物

31 州 6画
州州州州州州
シュウ　（す）
九州

31 根 10画
根根根根根根根根根根
コン　ね
大根　根気　屋根　根っこ

31 流 10画
流流流流流流流流流流
リュウ　（ル）　ながれる　ながす
流通　流行　雨水が流れる　あせを流す

31 荷 10画
荷荷荷荷荷荷荷荷荷荷
（カ）　に
荷物

31 君 7画
君君君君君君君
クン　きみ
山田君　ぼくと君

31 守 6画
守守守守守守
シュ　ス　まもる　（もり）
守備　留守番　決まりを守る

ひ

□3 悲 ⑫ ヒ　かなしい　かなしむ
□3 筆 ⑫ ヒツ　ふで
□1 百 ⑥ ヒャク
□3 氷 ⑤ ヒョウ　こおり　（ひ）
□3 表 ⑧ ヒョウ　おもて　あらわす　あらわれる
□3 秒 ⑨ ビョウ
□3 品 ⑨ ヒン　しな

ふ

□2 父 ④ △フ　ちち
□3 負 ⑨ フ　まける　まかす　おう
□3 部 ⑪ ブ

へ

□2 風 ⑨ △フウ　（フ）　かぜ　かざ
□3 服 ⑧ フク
□3 物 ⑧ ブツ　モツ　もの
□2 分 ④ ブン　フン　わける　わかれる　わかる　わかつ
□1 文 ④ ブン　モン　（モ）　（ふみ）
□2 聞 ⑭ ブン　（モン）　きく　きこえる
□2 平 ⑤ ヘイ　ビョウ　たいら　ひら
□2 米 ⑥ △ベイ　△マイ　こめ
□3 返 ⑦ ヘン　かえす　かえる

ほ

□2 歩 ⑧ ホ　（フ）　（ブ）　あるく　△あゆむ
□2 母 ⑤ △ボ　はは
□2 方 ④ ホウ　かた
□2 北 ⑤ △ホク　きた
□1 木 ④ △ボク　モク　△こ　き
□1 本 ⑤ ホン　△もと

ま

□2 毎 ⑥ マイ
□2 妹 ⑧ （マイ）　いもうと
□2 万 ③ （マン）　（バン）

み

□3 味 ⑧ ミ　あじ　あじわう

め

□1 名 ⑥ △メイ　△ミョウ　な
□2 明 ⑧ △メイ　△ミョウ　△あか　あかる　あかるい　あかるむ　△あからむ　△あきらか　△あける　あく　あくる　あかす
□2 鳴 ⑭ メイ　なく　なる　ならす
□3 面 ⑨ メン　（おも）　（おもて）　（つら）

も

□1 目 ⑤ モク　（ボク）　（め）　（ま）
□2 毛 ④ モウ　け
□2 門 ⑧ モン　（かど）
□3 問 ⑪ モン　とう　とい　（とん）

や

□2 夜 ⑧ ヤ　よ　よる
□2 野 ⑪ ヤ　の

ゆ

□3 由 ⑤ ユウ　（ユイ）　（よし）
□3 油 ⑧ ユ　あぶら
□2 友 ④ ユウ　とも
□3 有 ⑥ ユウ　（ウ）　ある
□3 遊 ⑫ ユウ　（ユ）　あそぶ

よ

□3 予 ④ ヨ
□2 用 ⑤ ヨウ　△もちいる
□3 洋 ⑨ ヨウ
□3 葉 ⑫ ヨウ　は

ら

□3 陽 ⑫ ヨウ
□3 様 ⑭ ヨウ　さま
□2 曜 ⑱ ヨウ
□2 来 ⑦ ライ　くる　（きたる）　（きたす）
□3 落 ⑫ ラク　おちる　おとす

り

□2 里 ⑦ △リ　さと
□2 理 ⑪ リ
□1 立 ⑤ △リツ　（リュウ）　たつ　たてる
□3 両 ⑥ リョウ
□1 力 ② △リキ　△リョク　ちから
□3 緑 ⑭ リョク　（ロク）　みどり
□1 林 ⑧ △リン　はやし

れ

□3 練 ⑭ レン　ねる

ろ

□3 路 ⑬ ロ　じ
□1 六 ④ ロク　む　むつ　むっつ　むい

わ

□2 話 ⑬ ワ　はな**す**　はなし

はんで意見をまとめよう

34 進 11画
シン
すす**む**　進行　前進
前に進む
すす**める**　進め方

35 役 7画
ヤク
（エキ）
役わり　役所

36 他 5画
タ
ほか　他人　その他
他のもの

すがたをかえる大豆

41 豆 7画
トウ
ズ
まめ　豆乳　大豆
豆まき　黒豆

41 者 8画
シャ
もの　筆者　作者
人気者

43 育 8画
イク
そだ**つ**　体育館　教育
そだ**てる**　ダイズが育つ
はぐく**む**　子犬を育てる
ゆめを育む

43 消 10画
ショウ
き**える**　消化　消火
け**す**　火が消える
電気を消す

45 取 8画
シュ
と**る**　取材
取り出す

46 期 12画
キ
（ゴ）　期間　時期

47 畑 9画
はた
はたけ　田畑　畑作
花畑

ことわざ・故事成語

56 福 13画
フク
幸福

57 苦 8画
ク
くるし**い**
くるし**む**
くるし**める**　苦しめる
にが**い**　苦いコーヒー
にが**る**　苦り切った顔
苦労　苦心
暑苦しい
病気で苦しむ
心を苦しめる

59 倍 10画
バイ
二倍　何倍

59 談 15画
ダン
相談　会談

漢字の意味

60 鼻 14画
（ビ）
はな　鼻歌　鼻血

60 歯 12画
シ
は　歯科
きれいな歯

61 階 12画
カイ
二階　階下

61 央 5画
オウ
中央

61 旅 10画
リョ
たび　旅行　旅館
旅人

61 委 8画
イ
ゆだ**ねる**　委員会
代表者に委ねる

61 級 9画
キュウ
学級　上級生

61 昭 9画
ショウ
昭和

61 和 8画
ワ
（オ）
（やわら**ぐ**）
（やわらげ**る**）
（なごむ）
（なごやか）
昭和　平和

61 駅 14画
エキ
駅前

61 業 13画
ギョウ
（ゴウ）
（わざ）
作業　農業

三年とうげ

61 皮 5画
ヒ
かわ　表皮　皮肉
皮むき

61 皿 5画
さら　皿あらい

66 息 10画
ソク
いき　消息　安息
ため息　鼻息

66 美 9画
ビ
うつくし**い**　美声　美化
美しい花

68 転 11画
テン
ころ**がる**　回転　転校
球が転がる
ころ**げる**　転げ落ちる
ころ**がす**　球を転がす
ころ**ぶ**　山道で転ぶ

70 病 10画
ビョウ
（ヘイ）
（や**む**）
やまい　病気　重病
病は気から

70 医 7画
イ　医者　医学

70 薬 16画
ヤク
くすり　薬品　薬局
目薬　かぜ薬

70 飲 12画
イン
の**む**　飲食
薬を飲む

70 重 9画
ジュウ
チョウ　体重　重大
え　軽重　貴重
おも**い**　三重県
かさ**ねる**　うでが重い
かさ**なる**　皿を重ねる
用事が重なる

70 配 10画
ハイ
くば**る**　心配　気配
新聞を配る

73 度 9画
ド
（ト）
（タク）
（たび）
一度　今度

76 幸 8画
コウ
さいわ**い**　幸福
幸い元気だ
（さち）
しあわ**せ**　幸せにくらす

78 始 8画
シ
はじ**める**　開始　年始
はじ**まる**　話し始める
工事が始まる

たから島のぼうけん

81 島 10画
トウ
しま　半島　列島
たから島

81 待 9画
タイ
ま**つ**　期待
待ち受ける

81 受 8画
ジュ
う**ける**　受信
う**かる**　待ち受ける
試験に受かる

カンジーはかせの音訓かるた

92 代 5画
ダイ
タイ
か**わる**　時代　代表
か**える**　交代
よ　当番を代わる
（しろ）　当番を代える
千代紙

92 曲 6画
キョク
ま**がる**　曲線　作曲
ま**げる**　右に曲がる
こしを曲げる

92 投 7画
トウ
な**げる**　投手　投書
球を投げる

92 炭 9画
タン
すみ　石炭
炭火　炭やき

92 庫 10画
コ
（ク）　車庫　金庫

92 羊 6画
ヨウ
ひつじ　羊毛
羊を数える

92 **勝** 12画
勝勝勝勝勝勝勝勝
ショウ　勝負
かつ　試合に勝つ
（まさる）

92 **宿** 11画
宿宿宿宿宿宿宿宿
シュク　宿題　合宿
やど　宿屋
やどる　雨宿り
やどす　命を宿す

92 **丁** 2画
丁丁
チョウ　一丁　五丁目
（テイ）

93 **帳** 11画
帳帳帳帳帳帳帳帳
チョウ　日記帳　手帳

93 **宮** 10画
宮宮宮宮宮宮宮
キュウ　宮でん　王宮
（グウ）
（ク）
みや　宮大工

93 **院** 10画
院院院院院院院
イン　寺院　病院

93 **笛** 11画
笛笛笛笛笛笛笛
テキ　汽笛
ふえ　口笛　たて笛

ありの行列

93 **礼** 5画
礼礼礼礼礼
レイ　お礼　失礼
（ライ）

95 **研** 9画
研研研研研研研研研
ケン　研究
（とぐ）

95 **究** 7画
究究究究究究究
キュウ　研究
（きわめる）

96 **庭** 10画
庭庭庭庭庭庭庭庭庭
テイ　校庭　家庭
にわ　うら庭

つたわる言葉で表そう

106 **等** 12画
等等等等等等等等等等等等
トウ　上等　等分
ひとしい　長さが等しい

107 **湖** 12画
湖湖湖湖湖湖湖湖湖湖湖湖
コ　湖上
みずうみ　大きな湖

これがわたしのお気に入り

108 **注** 8画
注注注注注注注注
チュウ　注意　注文
そそぐ　お茶を注ぐ

112 **反** 4画
反反反反
ハン　反対　反発
（ホン）
（タン）
そる　板が反る
そらす　むねを反らす

コンピュータのローマ字入力

114 **波** 8画
波波波波波波波波
ハ　電波
なみ　波が高い

114 **勉** 10画
勉勉勉勉勉勉勉勉勉勉
ベン　勉強　勉学

114 **放** 8画
放放放放放放放放
ホウ　放送　放出
はなす　魚を放す
はなつ　矢を放つ
はなれる　放れ馬
ほうる　放り投げる

わたしたちの学校じまん

115 **打** 5画
打打打打打
ダ　打球　打楽器
うつ　ボールを打つ

118 **速** 10画
速速速速速速速速速速
ソク　速度　時速
はやい　足が速い
はやめる　速度を速める
はやまる　速度が速まる
（すみやか）

モチモチの木

126 **神** 9画
神神神神神神神神神
シン　神話
ジン　神社
かみ　神様
（かん）
（こう）

129 **箱** 15画
箱箱箱箱箱箱箱箱箱箱箱箱箱箱箱
はこ　薬箱　筆箱

132 **湯** 12画
湯湯湯湯湯湯湯湯湯湯湯湯
トウ　熱湯
ゆ　湯をわかす

言葉のたから箱

考えや気持ちをつたえる言葉

人物や出来事についてせつめいするときや、自分の考えや気持ちを書いたり話したりするときに、役立てましょう。

人物を表す言葉

- すなお
- りこう
- いさましい
- いばる
- おくびょう
- 心やさしい
- 感じがよい
- 一生けんめい
- 注意深い
- うっかり

物や事がらの様子を表す言葉

- 十分
- 分かりやすい
- 美しい
- 分かりにくい
- 完全
- ――を上回る
- こうひょう
- どっしりした
- 重苦しい
- とくべつ

考え方を表す言葉

- 理由は――
- いっぽう――は
- 大きく分けると
- ――に当てはまる
- たとえば――
- このように――

気持ちを表す言葉

- 元気づけられる
- ありがたい
- かんしゃ
- かんげき
- じまん
- じしん
- てれる
- てれくさい
- 意外
- 頭にくる
- 落ち着かない
- 心細い
- つらい
- はっとする
- なごむ
- 目をうたがう
- うちょうてん
- もの足りない
- とくいになる
- ぎょっとする
- 気落ちする
- くたびれる
- やるせない
- 切ない

自分の使い方を見つけよう

「言葉のたから箱」をどのように使っているか、みんなで出し合ってみましょう。

〈れい〉
- 使った言葉にしるしをつける。
- 国語辞典で意味を調べた言葉に、しるしをつける。
- どんな文で使ったのかを書きこむ。
- 言葉をつけくわえる。　など

友だちの使い方をさんこうにして、くふうして使いましょう。

学習に用いる言葉

国語の学習で、よく使われる言葉です。意味や使い方をたしかめて、学習に役立てましょう。

会話文・地の文
かぎ（「　」）でしめしている登場人物の言葉を会話文といい、他のところを地の文という。物語では、主に地の文によって話が進む。

〈れい〉（「三年とうげ」72ページ）
「どうすればなおるんじゃ。」――――会話文
おじいさんは、ふとんから顔を出しました。――地の文

会話文では、登場人物の考えや思いがそのまま表れていることが多い。
地の文では、登場人物の様子や行動を表しているところに、その登場人物のせいかくや気持ちが表れていることがある。
26ページ

司会
話し合いなどを、目的や話題に合わせて進行すること。また、それを行う人。
司会をしていない人も、自分が司会だったらどう進めるかを考えながらさんかすると、話し合いが進みやすくなる。
35ページ

奥付
その本の書名や作者・筆者名、発行年、発行者などを記したページ、またはその部分。ふつう、本などの終わりのほうにある。
本などで調べて分かったことは、奥付に書かれている書名などといっしょにメモしておくと、後からたしかめたり、引用したりするときに役立つ。
50ページ

語り手
物語の地の文を語る人。人物の行動や気持ち、場面の様子などを語りながら、話を進めていく。
「モチモチの木」のように、語り手が自分の考えや気持ちを語る場合もある。語り手がどのような立場で、どの登場人物の気持ちによりそっているかをたしかめると、その物語の世界をいっそう深く読むことができる。
134ページ

これまでに学んだ言葉

引用
他の人が言ったことや、本などに書かれていることを、話や文章の中で使うこと。
①かぎ（「　」）をつけるなどして、他とくべつする。
②元の言葉や文を、そのままぬき出す。
③どこから引用したのかをしめす。

キャッチコピー
相手を引きつけるようにくふうされた、短い言葉。

句読点
文の終わりに打つ句点（。）と、文の中の意味の切れ目に打つ読点（、）とを合わせた言葉。

組み立て
「はじめ」「中」「終わり」など、文章や話などが、どのようなまとまりとじゅんじょでできているかということ。

さくいん
図鑑などで、その本の中にある言葉や物事が、どのページにあるかを五十音順などでしめしてあるもの。

段落
文章を組み立てている、事がらごとのないようのまとまり。はじめを一字下げて表す。

問い（問いの文）
せつめいする文章などで、これから何を書くかを、読み手に問いかけるかたちで表した文のこと。

場面
物語の中にあるいくつかのまとまり。時間や場所、登場人物の行動などでひとまとまりになっていることが多い。

連
一行空きなどを入れて区切られた、詩の中のそれぞれのまとまり。